HP LaserJet M9040/M9050 MFP
内蔵 Web サーバ
ユーザーズ ガイド

HP LaserJet M9040/M9050 MFP 内蔵 Web サ-ーバ
ユーザーズ ガイド

目次

4 デジタル送信オプションの設定

表のリスト

図のリスト

1 概要

内蔵 Web サーバとは

Microsoft® Windows® などのオペレーティング システムがコンピュータ上でプログラムを実行するための環境を提供するのと同様に、Web サーバは Web プログラムを実行するための環境を提供します。Microsoft Internet Explorer、Apple Safari、または Mozilla Firefox などの Web ブラウザは、Web サーバからの出力を表示できます。

内蔵 Web サーバは、ネットワーク サーバ上にロードされるソフトウェアとしてではなく、ハードウェア製品 (プリンタなど) のファームウェアに存在します。

製品に Web サーバが内蔵されていると、ユーザーはネットワークに接続したコンピュータと標準的な Web ブラウザを使用して、製品のインタフェースを開き使用できるという利点があります。特別なソフトウェアをインストールまたは設定する必要はありません。

HP 内蔵 Web サーバ (HP EWS) により、お使いのコンピュータでデバイスのステータス情報を表示したり、設定を変更したり、製品を管理することができます。

注記： このガイドでは、「製品」および「デバイス」という用語は同じ意味で使用しています。このガイドでの製品またはデバイスは、HP LaserJet プリンタ、多機能周辺機器 (MFP)、または HP Digital Sender を意味しています。プリンタ、MFP、または Digital Sender がサポートしている機能については、製品に付属のマニュアルを参照してください。

機能

製品のコントロール パネルの代わりに HP EWS を使用して、コンピュータからプリンタとネットワークのステータスを確認したり、印刷機能を管理することができます。HP EWS を使用して、次の操作を行うことができます。

- コントロール パネルのメッセージと製品のステータス情報を表示する
- すべてのサプライ品の寿命を確認したり、新しいサプライ品を注文する
- 製品のテクニカル サポート ページにアクセスする
- 最新の製品イベントの固有のサポートにアクセスする
- 最大 5 つのリンクを追加したり、他の Web サイトへのリンクをカスタマイズする
- トレイ設定など、製品の設定を表示および変更する
- ネットワークの設定を表示および変更する
- 設定ページなどの情報ページを表示および印刷する
- サプライ品が残り少なくなってきたときなどに製品イベントに関する警告を電子メール経由で受け取る 各ユーザー (管理者およびサービス) ごとに、警報先リストを最大 4 つ設定する（各リストには最大 20 名の受信者を設定できる)。
- HP EWS 画面を表示する言語を選択する
- 製品のプリンタ ドライバをインストールすることなく HP 製品に出力する
- 無操作状態が一定時間続いた場合に製品をスリープ モードにするためのスリープ遅延を設定し電力を節約する
- 製品を使用する時刻までに初期化と校正が完了するように、各曜日のウェイクアップ時刻をスケジュール設定する

- 製品の設定とサプライ品の使用状況に関する情報をサービス プロバイダに定期的に送信する
- 製品のセキュリティ設定を設定します。

HP Web Jetadmin と HP 内蔵 Web サーバ

HP Web Jetadmin は、Web ブラウザで使用できる Web ベースのシステム管理ツールです。HP EWS と HP Web Jetadmin を組み合わせて使用することで、すべての製品管理のニーズに対応できます。ソフトウェアを使用して、ネットワーク製品を効果的にインストールおよび管理できます。ネットワーク管理者は、ネットワークに接続された製品を実質的にあらゆる場所からリモート管理できます。

HP EWS は、ご使用の製品数が少ない場合に製品を 1 つずつ管理するための、簡単で使いやすいソリューションを提供します。複数の製品が存在する環境では、HP Web Jetadmin を使用して製品をグループとして管理することをお勧めします。HP Web Jetadmin では、複数の製品を同時に検出、管理、および設定することができます。

HP Web Jetadmin は、HP オンライン サポートから利用することができます (HP Web Jetadmin www.hp.com/go/webjetadmin)。

システム要件

HP EWS を使用するには、以下のコンポーネントが必要です。

- サポートされている Web ブラウザ。以下のブラウザを含む、内蔵 Web サーバをサポートしているブラウザ。
  - Konqueror 3.5 以降
  - Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
  - Mozilla Firefox 1.0 以降
  - Opera 9.0 以降
  - Safari 1.0 以降
- TCP/IP (transmission control protocol/Internet protocol) ベースのネットワーク接続。
- 製品にインストールされている HP Jetdirect プリント サーバ (内蔵または拡張 I/O (EIO)。

HP 内蔵 Web サーバへのアクセス

以下の手順に従って、HP EWS にアクセスします。

注記： ファイアウォールの外側から HP EWS の画面を表示することはできません。

1. Web ブラウザを開きます（サポートされているブラウザ)。
2. **[アドレス]** または **[移動]** フィールドに、IPv4 または IPv6 TCP/IP アドレス、ホスト名、または製品に割り当てられている設定済みのホスト名を入力します。以下の例を参照してください。
   - IPv4 TCP/IP アドレス: http://192.168.1.1
   - IPv6 TCP/IP アドレス: http://[2001:0ba0:0000:0000:0000:0000:0000:1234]
   - ホスト名: npiXXXXXX

製品の TCP/IP アドレスが不明な場合は、コントロール パネルのメニューを使用して、または設定ページを印刷して確認することができます。手順については、製品に付属のユーザーズ ガイドを参照してください。

注記： デバイス用の HP EWS は、**[情報]**、**[設定]**、**[ネットワーキング]** の各タブで IPv6 をサポートしています。一方、**[デジタル送信]** タブでは、IPv4 アドレスの設定だけをサポートしています。

ログインとログオフ

HP EWS には、製品情報を表示したり、設定オプションを変更する画面があります。表示される画面と、画面に示される設定は、一般ユーザー、IT 管理者、またはサービス プロバイダのどのアカウントで HP EWS にアクセスしたかによって異なります。これらのパスワードは、IT 管理者またはサービス プロバイダがカスタマイズできます。

パスワード保護されている HP EWS では、パスワードを使用せずにログインしたユーザーには、**[情報]** タブのみが表示されます。パスワードが設定されていない場合 (デフォルト) は、すべてのタブが表示されます。

パスワードが設定されている場合、保護されている HP EWS タブ (**[設定]**、**[デジタル送信]**、**[ネットワーキング]**) にアクセスするためには IT 管理者またはサービス プロバイダとしてログオンする必要があります。

注記： IT 管理者がパスワードを変更する方法については、「37 ページの 「セキュリティ」」を参照してください。サービス プロバイダがパスワードを変更する方法については、製品のサービス ガイドを参照してください。

管理者アカウントでログインするには

HP EWS に管理者アカウントでログインするには、以下の手順に従います。

1. EWS にアクセスし、画面の右上隅にある **[ログイン]** リンクをクリックします。

   以下の図のような **[ネットワーク パスワードの入力]** ダイアログ ボックスが表示されます。ログイン画面の外観は、使用しているオペレーティング システムとブラウザによって異なります。

   図 1-1 [ネットワーク パスワードの入力] ダイアログ ボックス

2. ユーザー名に「admin」と入力し、パスワードを入力して **[OK]** をクリックします。

管理者アカウントでログオフするには

ログオフするには、以下の手順に従います。

1. **[ログオフ]** リンクをクリックします。
2. ログオフを完了するには、ブラウザを閉じます。

△ **注意：** ブラウザを閉じないと、製品の HP EWS へ接続されたままになり、セキュリティ リスクが生じる可能性があります。

HP 内蔵 Web サーバ内の移動

HP EWS の画面内を移動するには、いずれかのタブ (**[情報]** タブや **[設定]** タブなど) をクリックして、画面の左側にあるナビゲーション バーのいずれかのメニューをクリックします。

以下の図と表に、HP EWS の画面に関する情報を示します。

注記： IT 管理者が設定した製品の機能と設定により、HP EWS の画面の外観がこのユーザーズ ガイドの図と異なる場合があります。

図 1-2 HP EWS の画面の例

表 1-1 HP 内蔵 Web サーバ

番号	HP EWS の画面の機能	説明		詳細情報
1	製品名と TCP/IP アドレス	製品名が表示されます。		
2	タブ	**[情報]** タブ	製品に関する情報が表示されます。このタブの画面を使用して製品を設定することはできません。	「11 ページの 「HP EWS の [情報] タブの画面での製品ステータスの表示」」を参照。
		[設定] タブ	このタブの機能を使用して、製品を設定します。	「23 ページの 「[設定] 画面からの製品の設定」」を参照。
		[デジタル送信] タブ	このタブの機能を使用して、デジタル送信機能を設定します。 **注記：** デジタル送信ソフトウェア (HP DSS) をインストールした場合は、HP デジタル送信ソフトウェアの設定ユーティリティ を使用してデジタル送信オプションを設定する必要があります。	「59 ページの 「デジタル送信オプションの設定」」を参照。
		[ネットワーキング] タブ	ネットワークのステータスが表示され、ネットワークの設定を行うことができます。	「91 ページの 「ネットワーキング画面からのネットワーク操作の管理」」を参照。

表 1-1 HP 内蔵 Web サーバ (続き)

番号	HP EWS の画面の機能	説明		詳細情報
3	メニュー	タブによって異なります。	メニューを表示するには、タブをクリックします。	
4	その他のリンク	**[hp Instant Support]**	HP 製品の問題の解決方法と利用可能な追加サービスに関する説明を示す一連の Web リソースに接続します。	• 「95 ページの 「その他のリンクのリソースとしての使用」」を参照。 • 「96 ページの 「hp Instant Support 」」を参照。 • 「98 ページの 「製品サポート 」」を参照。 • 「99 ページの 「[サービス プロバイダ] リンクと [サービスの連絡先] リンク」」を参照。
		[サプライ品の購入]	使用している HP 製品用の HP 純正サプライ品をインターネット経由で注文できます。	
		[製品サポート]	問題を解決する際に、HP の Web サイトに掲載されている製品固有のヘルプにアクセスできます。	
5	画面	メニュー項目によって異なります	メニュー項目をクリックして画面を表示します。	• 「11 ページの 「HP EWS の [情報] タブの画面での製品ステータスの表示」」を参照。 • 「23 ページの 「[設定] 画面からの製品の設定」」を参照。 • 「91 ページの 「ネットワーキング画面からのネットワーク操作の管理」」を参照。

2 HP EWS の [情報] タブの画面での製品ステータスの表示

[情報] タブから表示可能な画面は読み取り専用で、これらの画面から製品を設定することはできません。HP EWS を使用して製品を設定する方法については、「23 ページの 「[設定] 画面からの製品の設定」」を参照してください。

注記： 一部の製品でサポートされていない画面もあります。

デバイスのステータス

[デバイスのステータス] 画面は、製品の現在のステータスを確認するのに使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 2-1 [デバイスのステータス] 画面

表 2-1 デバイスのステータス

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ステータス	デバイスのステータス (コントロール パネル ディスプレイに表示されるのと同じ情報) が表示されます。 このデバイスについてユーザーの操作が必要になると、このエリアにヘルプ イメージが表示され、ポップアップ ウィンドウに説明が表示されます。
3	コントロール パネル ボタン	コントロール パネル ボタンは、製品のボタンと同じように使用します。この画面に表示するコントロール パネル ボタンを選択するには、**[設定]** タブの **[セキュリティ]** 画面に進みます。
4	サプライ品	各サプライ品の残量がパーセントで表示されます。
5	サプライ品詳細	**[サプライ品のステータス]** 画面が表示されます。ここには、製品のサプライ品に関する情報が表示されます。
6	メディア	給紙トレイと排紙ビンのステータスと設定情報が表示されます。 トレイが完全に空になるまでメディアのステータスは **[OK]** になっており、 トレイが空になるとステータスは **[なし]** になります。
7	設定の変更	**[設定]** タブに移動します。このタブでは、デバイスの設定を行うことができます。

プリンタ設定ページ

[設定ページ] 画面は、製品の現在の設定を表示したり、問題を解決したり、オプションのアクセサリ（DIMM メモリなど）が取り付けられているかどうかを確認するのに使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 2-2 [プリンタ設定ページ]

表 2-2 プリンタ設定ページ

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	デバイス情報	デバイスのシリアル番号、バージョン番号、およびその他の情報が表示されます。
3	オプション	オプションのアクセサリや設定について以下の情報が表示されます。 ● 製品 (Jetdirect または内蔵 Jetdirect) に接続されているすべてのネットワーク デバイスのバージョンと TCP/IP アドレス ● インストールされているすべてのプリンタ言語 (Printer Command Language [PCL] および PostScriptR [PS] など) ● 各 DIMM スロットおよび EIO スロットに取り付けられているオプション ● ホスト USB コントローラとして使用されているプリンタに接続可能な USB デバイス (マス ストレージ デバイス、カード リーダー、またはキーパッドなど)
4	メモリ	メモリ情報、PCL Driver Work Space (DWS)、リソース保存情報が表示されます。
5	セキュリティ	コントロール パネルのロック、ディスクの書き込み禁止オプション、および直接接続ポート (USB またはパラレル) のステータスが表示されます。 直接接続ポートのステータスは、**[設定]** タブの **[セキュリティ]** 画面で **[ダイレクト ポートを無効にする]** チェック ボックスをオフにすることで変更できます。
6	用紙トレイとその他のオプシ-ョ-ン	製品にセットされている各トレイに指定されているメディアのサイズとタイプが表示されます。製品に両面印刷ユニットまたは用紙処理アクセサリが取り付けられている場合は、それらのデバイスに関する情報もここに表示されます。

サプライ品のステータス

[サプライ品のステータス] 画面には、サプライ品の詳細情報と HP 純正サプライ品の製品番号が表示されます。(サプライ品を注文する際は、製品番号を控えておいてください)。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 2-3 **[サプライ品のステータス]** 画面

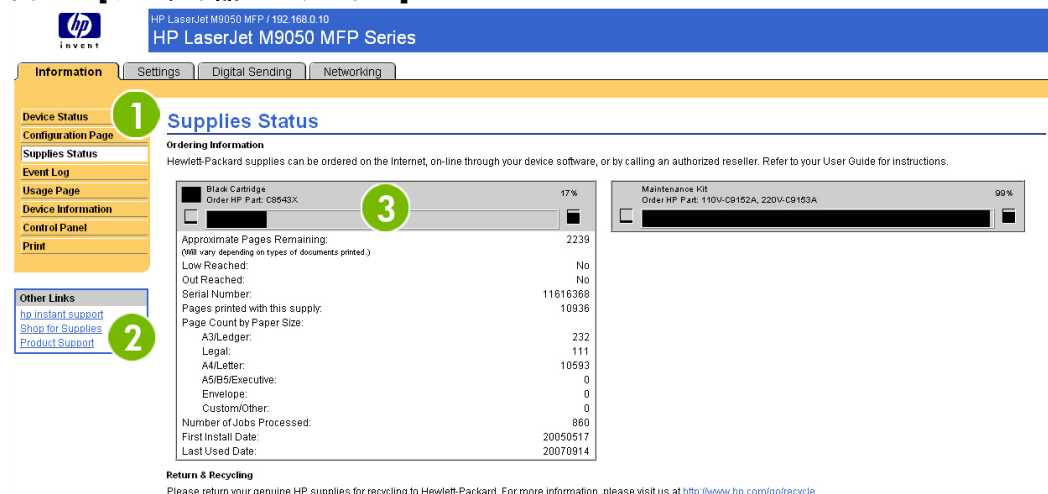



表 2-3 **サプライ品のステータス**

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	[サプライ品の購入] リンク	希望の小売店にサプライ品をオンラインで注文することができる Web ページに接続するのに使用します。
3	プリント カートリッジ情報	有効にしている場合、サプライ品の残量パーセントと予想ページ数（このサプライ品が空になるまでに印刷できるページ数）、このサプライ品で処理した合計ページ数、このサプライ品のシリアル番号と HP 製品番号、サプライ品が下限値に達したかどうかが表示されます。 製品のコントロール パネルで **空を無視** オプションを有効にしている場合は、サプライ品を使い切ったときにメッセージが表示され、そのカートリッジが「空を無視」設定で使用されたことが示されます。 注記： HP 純正品ではないサプライ品を使用した場合は、デバイスを使用できない可能性があることを示すメッセージが表示されます。また、HP 純正品以外のサプライ品を使用した場合のリスクに関する警告メッセージも表示されます。サプライ品のステータスに関する詳細情報は表示されません。

イベント ログ

[イベント ログ] 画面には、紙詰まり、サービス エラー、その他の状態など、プリンタに関するイベントが表示されます。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 2-4 [イベント ログ] 画面

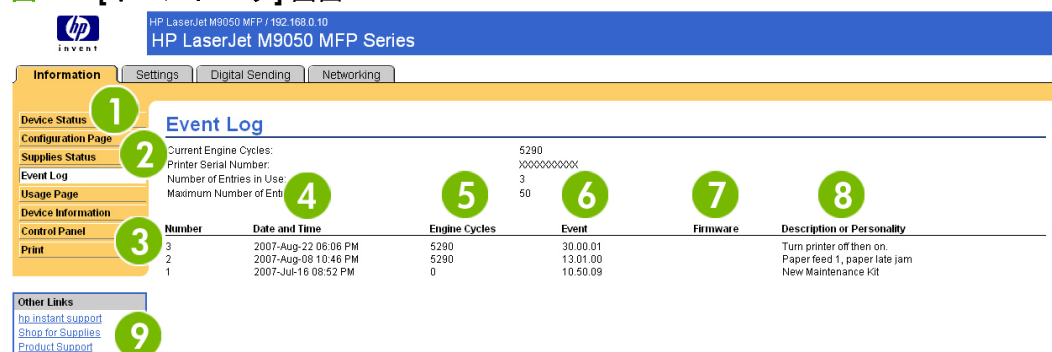



表 2-4 イベント ログ

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	現在のエンジン サイクル	製品が現在までに完了したエンジン サイクル数が表示されます。
3	番号	エラーが発生した順番が表示されます。最後に発生したエラーが一番大きい値になります。
4	日付と時刻	ログに記録された各イベントの日付と時刻が表示されます。
5	エンジン サイクル	エラーが発生したときに製品が完了したエンジン サイクル数が表示されます。製品は、印刷またはコピーするレター/A4 サイズのページ毎に 1 つのエンジン サイクルを完了します。
6	イベント	各イベントの内部イベント コードが表示されます。
7	ファームウェア	ファームウェア アップグレードのバージョン番号が表示されます。
8	説明またはパーソナリティ	一部のイベントの簡潔な説明が表示されます。
9	[製品サポート] リンク	HP サポート Web サイトにアクセスして、製品固有のトラブル解決情報を確認できます。

使用状況ページ

[使用状況ページ] 画面には、製品で処理したメディアのサイズ毎のページ数と、両面印刷したページの数が表示されます。合計は、印刷数の合計値に [単位] 値を乗算して計算されます。

この画面の情報により、用意しておくトナーまたは用紙の量を判断できます。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 2-5 [使用状況ページ] 1 / 2

HP LaserJet M9050 MFP / 192.168.0.10

HP LaserJet M9050 MFP Series

Information | Settings | Digital Sending | Networking

1

- Device Status
- Configuration Page
- Supplies Status
- Event Log
- Usage Page
- Device Information
- Control Panel
- Print

Other Links

- hp instant support
- Shop for Supplies
- Product Support

Usage Page

Device Information

Printer Serial Number: XXXXXXXXXX

Device Name HP LaserJet M9050 MFP

2 Usage Totals (equivalent) 3 3 4

Printer Page Size	Simplex Count	Simplex Units	Duplex Count	Duplex Units	Total	Duplex 1 Image Count
Letter	4,052	1.0	125	2.0	4302.0	0
Legal	60	1.3	24	2.6	140.4	0
A4	614	1.0	30	2.0	674.0	0
Executive	0	0.8	0	1.6	0.0	0
11x17	48	2.0	24	4.0	192.0	0
A3	48	2.0	30	4.0	216.0	0
Envelope #10	0	0.4	**	**	0.0	**
Envelope Monarch	0	0.3	**	**	0.0	**
Envelope C5	0	0.6	**	**	0.0	**
Envelope DL	0	0.4	**	**	0.0	**
B4(JIS)	0	1.5	0	3.0	0.0	0
B5(JIS)	0	0.7	0	1.4	0.0	0
Envelope B5	0	0.7	**	**	0.0	**
Custom	0	1.0	0	2.0	0.0	0
DPostcard(JIS)	0	1.0	**	**	0.0	**
A5	0	0.5	0	1.0	0.0	0
8K	0	1.7	0	3.4	0.0	0
16K	0	0.8	0	1.6	0.0	0
Letter Rotated	0	1.0	0	2.0	0.0	0
A4 Rotated	3	1.0	0	2.0	3.0	0
8.5x13	0	1.1	0	2.2	0.0	0
Statement	0	0.5	**	**	0.0	**
12x18	0	2.3	0	4.6	0.0	0
RA3	0	2.1	0	4.2	0.0	0
Total Printer Usage					5527.4	

Total Copy Pages Printed	20
Total Fax Pages Printed	0

Scanned (Copy, Send, & Fax) Page Size	Simplex Count	Simplex Units	Duplex Count	Duplex Units	Total
Letter	813	1.0	71	2.0	955.0
Legal	0	1.3	0	2.6	0.0
A4	117	1.0	26	2.0	169.0
Executive	0	0.8	0	1.6	0.0
11x17	0	2.0	0	4.0	0.0
A3	0	2.0	0	4.0	0.0
B4(JIS)	0	1.5	0	3.0	0.0
B5(JIS)	0	0.7	0	1.4	0.0
Custom	0	1.0	0	2.0	0.0
A5	0	0.5	0	1.0	0.0
8.5x13	0	1.1	0	2.2	0.0
Statement	0	0.5	0	1.0	0.0
Total Scanner Usage					1124.0

図 2-6 [使用状況ページ] 2 / 2

Copy Job Scan Count	4
Send Job Scan Count	0
ADF Simplex Pages:	4
ADF Duplex Pages:	0
ADF Total Pages:	4
Flatbed Scan Count	0

5 Print Modes & Paper Path Usage (actual)

Print Modes Usage

Print Mode	Total
Normal	5291
High1	0
High2	0
Low	0
Special	0
Total	5291

Paper Path Usage

Source	Count	Destination	Count
Envelope Feeder	0	Face Up	1
Manual Feed Tray	0	Face Down	0
Tray 1	0	External Bin	5290
Tray 2	5147	Other	0
Tray 3	62	Total	5291
External Tray	82		
Other	0		
Total	5291		

6 Historical Device Coverage

Coverage 13.485%

表 2-5 使用状況ページ

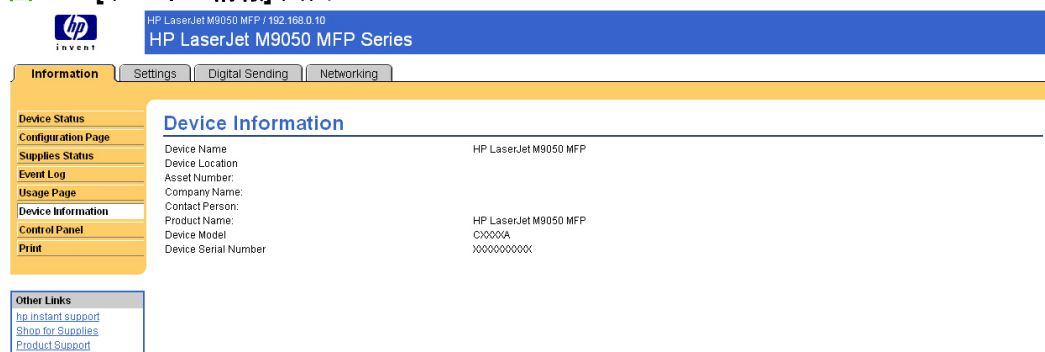
番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	総使用状況 (同等値)	印刷したページのタイプ、片面印刷ページ数、両面印刷ページ数、印刷した合計ページ数を示します。
3	単位コスト	1 単位は、標準 A4 サイズ (レター サイズ) 1 ページ分です。その他のすべてのページ サイズは、この標準サイズに対するサイズになります。両面印刷した A4 サイズ (レター サイズ) 1 ページは 2 単位になります。
4	1 イメージを両面印刷	[1 イメージを両面印刷] とは、両面印刷ジョブの一部として印刷されたが、裏面が空白のページのことを表します。
5	プリント モードと用紙経路の使用方法 (実際)	カラーおよびモノクロ (白黒) 印刷ジョブで使用した各種印刷モードを示します。
6	デバイスの印刷量の履歴	印刷した各ページで使用したトナーの平均量を示します。

デバイス情報

[デバイス情報] 画面には、以下の情報が表示されます。

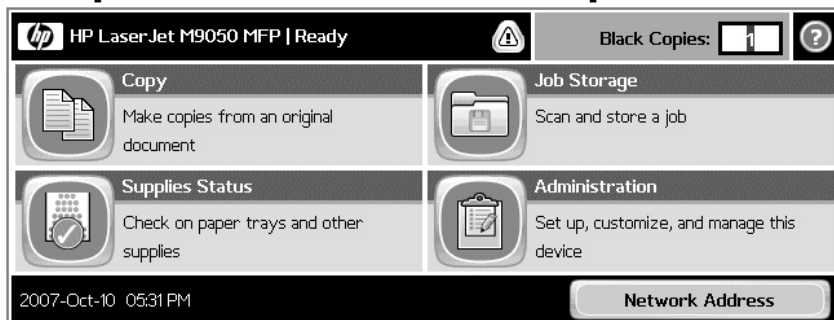
- デバイス名
- デバイスの場所
- アセット番号
- 会社名
- 担当者
- 製品名
- デバイス モデル
- デバイスのシリアル番号

製品名、デバイス モデル、およびデバイスのシリアル番号が自動的に生成されます。この画面のその他の情報は、**[設定]** タブの **[デバイス情報]** 画面で設定できます。

図 2-7 **[デバイス情報]** 画面

コントロール パネルのスナップショット

[コントロール パネルのスナップショット] 画面には、実際のコントロール パネルと同じ状態で製品のコントロール パネル ディスプレイが表示されます。この画面には製品のステータスが表示されるため、製品のトラブルを解決する際に役立ちます。

注記： この画面の外観は製品によって異なる場合があります。

図 2-8 [コントロール パネルのスナップショット] 画面

印刷

注記： **[印刷]** 画面 (および左側の **[印刷]** メニュー) は、**[設定]** タブの **[セキュリティ]** 画面で表示されるように設定した場合にのみ表示されます。セキュリティ上の理由により **[印刷]** 画面を表示しないようにするには、**[セキュリティ]** 画面を使用します。詳細については、「37 ページの 「セキュリティ」」を参照してください。

[印刷] 画面は、印刷準備のできているファイルを印刷したり、製品のファームウェアをリモートから更新するのに使用します。

[印刷] 画面を使用して、HP EWS をサポートしている製品から 1 度に 1 つのファイルを印刷できます。この機能を使用すると、自分のマシンに本製品のプリンタ ドライバがインストールされていなくても、いつでもどこでも印刷を行うことができるため、この機能はとくにモバイル ユーザーにとって便利です。

印刷できるのは、印刷準備のできているファイルです。たとえばアプリケーションで印刷するときに「ファイルへ出力」オプションを使用して生成した印刷用ファイルなどです。一般的な印刷用ファイルの例は、.PS (PostScript)、.PDF (Adobe Portable Document Format)、.PRN (Windows 印刷用ファイル) などのファイル名拡張子が付いているファイルなどです。

製品のファームウェアを更新するのに追加のソフトウェアをインストールする必要がないため、この機能は特に便利です。製品のファームウェア ファイルの更新版は、以下の製品サポート Web サイトからダウンロードできます。

http://welcome.hp.com/country/us/en/support.html

以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 2-9 [印刷] 画面

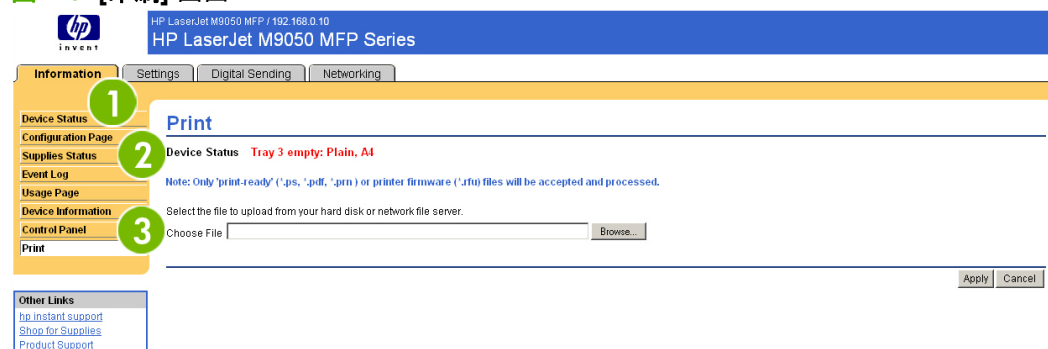



表 2-6 印刷のページ

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	デバイスのステータス	デバイスのステータス (**[デバイスのステータス]** 画面とコントロール パネル ディスプレイに表示される情報と同じ情報) が表示されます。
3	ファイルの選択	ノートブック、コンピュータ、またはネットワーク ファイル サーバにある、.pdf や .txt ファイルなどの印刷可能なファイルを印刷します。

[印刷] 画面からのファイルの印刷またはファームウェアの更新

[印刷] 画面からファイルを印刷したり、ファームウェアを更新するには、以下の手順に従います。

1. **[参照]** をクリックして、マシン上またはネットワーク上にある印刷するファイルを選択します。
2. **[適用]** をクリックします。

3 [設定] 画面からの製品の設定

[設定] タブの画面を使用して、コンピュータから製品を設定します。

デバイスの設定

[デバイスの設定] 画面を使用して、デバイス情報ページを印刷したり、デバイスをリモートから設定できます。

この画面のメニューは、デバイスのコントロール パネルのメニューとほぼ同じです。デバイスのコントロール パネルの一部のメニューは、HP EWS から使用することはできません。使用しているデバイスがサポートしているメニューの詳細については、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

以下の図、表、および手順の例に、この画面の使用方法を示します。

図 3-1 **[デバイスの設定]** 画面

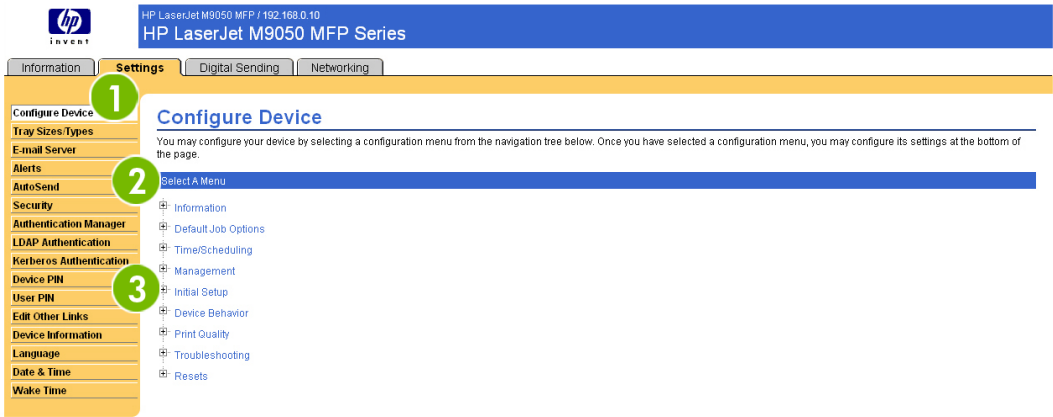



表 3-1 デバイスの設定

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。

表 3-1 デバイスの設定 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能	
2	メニューを選択	**[情報]** メニュー	デバイスとその設定の詳細を示すデバイス情報ページを印刷します。
		[デフォルト ジョブ オプション] メニュー	各機能のデフォルト ジョブ オプションを定義するには、このメニューを使用します。
		[時刻/スケジューリング] メニュー	時刻の設定、およびデバイスのスリープ モード開始と終了に関するオプションを設定するには、このメニューを使用します。
		[管理] メニュー	デバイス全体の管理オプションを設定するには、このメニューを使用します。
		[初期セットアップ] メニュー	[初期セットアップ] メニューを使用すると、ネットワーク、I/O、ファックス、および電子メールに関するセットアップ画面にアクセスできます。
		[デバイス動作] メニュー	デバイスの言語、音、タイムアウト、およびエラー動作を決定するには、このメニューを使用します。
		[印刷品質] メニュー	デバイスの印刷品質設定を変更するには、このメニューを使用します。
		[トラブルシューティング] メニュー	デバイスのトラブルを解決するための情報を取得できます。
		[リセット] メニュー	設定を初期セットアップの値に復元するには、このメニューを使用します。
3	プラス記号 (⊞)	メニューの横にあるプラス記号をクリックするか、メニュー自体をクリックすると、サブメニューまたはサブエントリが表示されます。	

[デバイスの設定] 画面のメニューの使用

手順の例を以下に示します。同様の手順に従って、他のメニュー項目を設定することもできます。

以下の手順に従って、デモンストレーション ページを印刷します (これは手順の例です)。

1. **[情報]** をクリックします。
2. **[サンプル ページ/フォント]** をクリックします。
3. **[PCL フォント リスト]** のチェック ボックスをオンにして、**[適用]** をクリックします。ページがデバイスで印刷されます。

注記： プリンタ ドライバとソフトウェア プログラムにより、**[印刷]** メニューおよび **[用紙処理]** メニューに行った設定が頻繁に変更されます。詳細については、製品に付属のユーザーズ ガイドを参照してください。変更内容は、**[デバイスのステータス]** 画面、**[設定ページ]** 画面、および **[用紙処理]** メニューに反映されます。

トレイ サイズ/タイプ

製品の各トレイに対して用紙のサイズやタイプを割り当てるには、**[トレイ サイズ/タイプ]** 画面を使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 3-2 **[トレイ サイズ/タイプ]** 画面

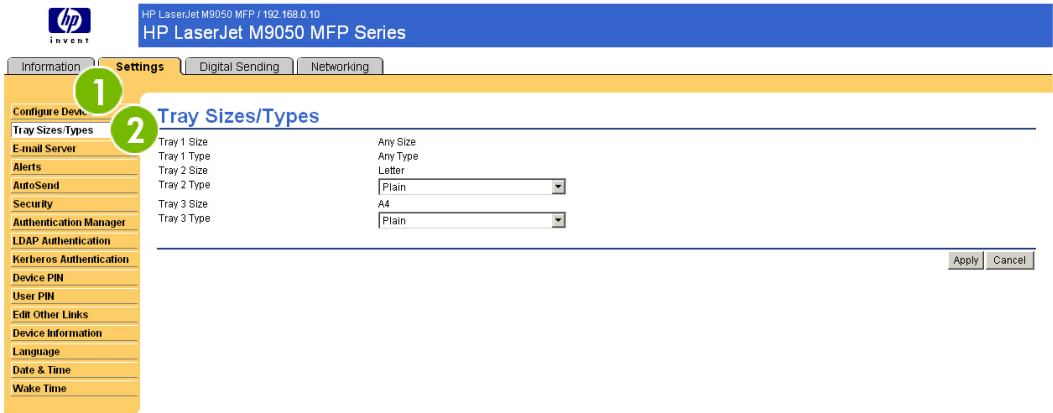



表 3-2 **トレイ サイズ/タイプ**

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」を参照してください。
2	**[トレイ サイズ]** と **[トレイ タイプ]**	製品の各トレイで使用するデフォルトの用紙サイズとタイプを選択するには、これらのメニューを使用します。

電子メール サーバ

[電子メール サーバ] 画面は、送信メールの設定を行うのに使用します。製品の警報など、電子メール メッセージを送信および受信するにはこの画面の設定を使用します。以下の図、表、および手順に、この画面の使用方法を示します。

図 3-3 [電子メール サーバ] 画面

表 3-3 電子メール サーバ

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	送信メール	警報または自動送信機能を使用する場合は、送信メールを設定します。詳細については、「30 ページの 「[警報] 画面の使用 」」を参照してください。
3	返信の電子メール アドレス	デバイスの警報に表示されるデバイスの電子メール アドレスです。詳細については、「28 ページの 「返信先電子メール アドレスの設定」」を参照してください。
4	SMTP 認証の有効化	SMTP サーバが認証を要求する場合、認証情報をここに入力します。

送信メールの設定

警報または自動送信機能を使用する場合は、送信メールを設定する必要があります。

1. 以下の情報を収集します (送信メールの設定に必要な情報は、通常、社内のネットワーク管理者または電子メール管理者によって提供されます)。
   - ネットワーク上の SMTP メール サーバの TCP/IP アドレス。EWS は、SMTP サーバの TCP/IP アドレスを使用して、電子メール メッセージを他のコンピュータに転送します。
   - 社内で電子メール メッセージのアドレスを指定するのに使用する電子メール ドメイン名サフィックス。
2. **[送信メールを使用する]** チェック ボックスをオンにします。
3. SMTP サーバの TCP/IP アドレスを **[SMTP サーバ]** テキスト ボックスに入力します。

4. **[ドメイン名]** テキスト ボックスにドメイン名を入力します。

5. **[適用]** をクリックして変更を保存します。

返信先電子メール アドレスの設定

[電子メール サーバ] ページで返信先電子メール アドレスを設定すると、製品の識別情報が設定されます (オプション)。たとえば、**[ユーザー名]** フィールドに「anyone」と入力して、**[ドメイン名]** フ-ィ-ールドに「yourdomain.com」と入力すると、製品から送信されるすべての電子メールの送信元は anyone@yourdomain.com になります。この例で、「anyone@yourdomain.com」は製品の識別情報です。

警報

IT 管理者は **[警報]** 画面を使用して、問題またはステータスの警報を電子メール メッセージで送信するように製品を設定できます。任意のユーザーに この機能を設定すると、サプライ品、用紙経路のステータス、およびその他のサービスやアドバイス情報に関する警報が自動的に送信されます。複数のユーザーが警報を受信するように設定したり、各ユーザーが特定の警報のみ受信するように設定できます。たとえば、プリント カートリッジの注文や紙詰まりの解消を担当している管理アシスタントが、トナーの残量が少なくなったり、紙詰まりが発生したときに事前に警告を受け取ることができます。同様に、長寿命サプライ品を取り扱う外部のサービス プロバイダが、製品のメンテナンスの実行、正面または背面ステイプラの取り付けなどのニーズに関する警報を受け取ることができます。

注記： 各ユーザーは警報先リストを最大 4 つ作成でき、各リストには最大 20 名の受信者を設定できます。

[コントロール パネルに表示しないメッセージの選択] オプションをオンにして (**[新しい警報先リスト]** ボタンを押して表示される **[警報 - セットアップ]** 画面で設定可能)、**カートリッジ残量少** または **カートリッジが空になりました** サプライ品ステータス メッセージをコントロール パネルに表示しないようにすることができます。いずれかまたは両方のメッセージを受信するように選択した場合だけ、コントロール パネルにメッセージが表示されなくなります。

以下の図、表、および手順で、この画面を使用して、警報先および警報先リストを編集、テスト、および削除する方法について説明します。

注記： 警報を送信するためには、送信メールを有効にする必要があります。送信メールを有効にする方法については、「27 ページの 「送信メールの設定」」を参照してください。

図 3-4 [警報] 画面

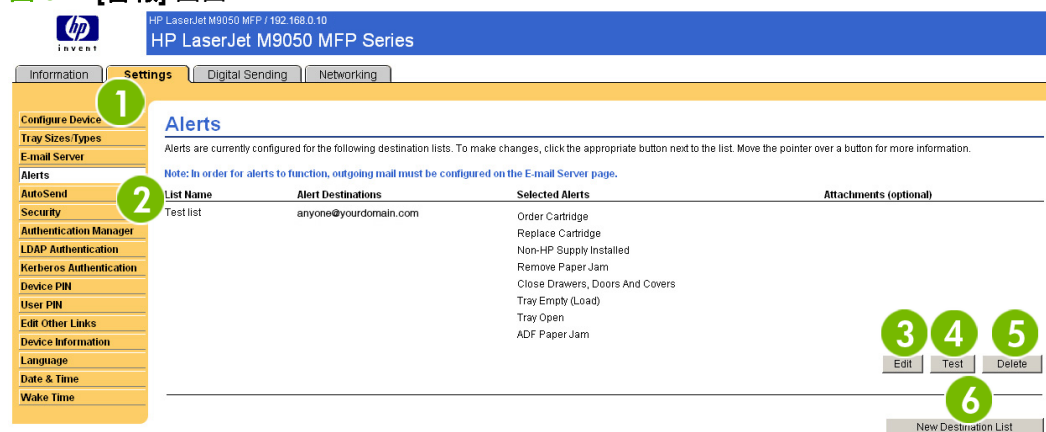



表 3-4 警報

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	警報先リストの概要	現在選択されている各警報先が表示されます。
3	編集	警報先または警報先リストを変更するには、このボタンをクリックします。
4	テスト	テスト警報を警報先または警報先リストに送信するには、このボタンをクリックします。
5	削除	警報先または警報先リストを削除するには、このボタンをクリックします。
6	新しい警報先リスト	新しい警報先リストを設定するには、このボタンをクリックします。

[警報] 画面の使用

最大 20 名の受信者を設定可能な警報先リストを最大 4 つ作成できます。

次の図に **[警報 - セットアップ]** 画面の例を示します。この画面は、**[編集]** または **[新しい警報先リスト]** をクリックすると表示されます。

図 3-5 [警報 - セットアップ]

HP LaserJet M9050 MFP / 192.168.0.10

HP LaserJet M9050 MFP Series

Information | **Settings** | Digital Sending | Networking

Configure Device
Tray Sizes/Types
E-mail Server
Alerts
AutoSend
Security
Authentication Manager
LDAP Authentication
Kerberos Authentication
Device PIN
User PIN
Edit Other Links
Device Information
Language
Date & Time
Wake Time

Other Links
hp instant support
Shop for Supplies
Product Support

Alerts - setup

Step 1: Type the list name

Type a name for your destination list.

List Name:

Step 2: Type the alert destinations

Type a maximum of 20 alert destinations in any of the following forms:

An e-mail address (e.g., your~name@your~company.com)
A mobile device (e.g., 208-555-5555@mobile~company.net)
A posting to a website (e.g., <http://www.your~server.com>)

Separate alert destinations using a semi-colon (;) or a comma (,).

Alert Destinations:

Step 3: Select Alerts

Select the alerts that you would like the alert destinations to receive. The most common alerts are listed here.

Alert Name	Selected	Threshold*
Order Cartridge	☐	8 (0-100) percent
Replace Cartridge	☐	
Non-HP Supply Installed	☐	
Remove Paper Jam	☐	2 minutes elapsed
Close Drawers, Doors And Covers	☐	2 minutes elapsed
Tray Empty (Load)	☐	2 minutes elapsed
Tray Open	☐	2 minutes elapsed
ADF Paper Jam	☐	2 minutes elapsed

*Changes to threshold values apply to all destinations for this device.

Additional Alerts

To view all of the alerts for this product, click the **Show All Alerts** button.

Note: Clicking this button saves your current changes and opens the page that lists all of the alerts options.

Show All Alerts

Step 4: Select Control Panel Messages to Suppress

Select the message(s) below that you do not want to show on the device control panel. The option is available only if the corresponding e-mail alert has been selected in the previous step.

☐ Order and Replace Cartridge

Step 5: Select e-mail attachments (optional)

Select the attachments that you want to include with each e-mail alert message in this destination list. Go to the **Information** tab to see examples of these pages.

☐ Supplies Status Page
☐ Usage Page
☐ Configuration Page
☐ Event Log Page

Select this option if one of the alert destinations you have chosen to receive alerts is an automated computer system.

☐ XML Data

OK | Cancel

警報を設定するには

1. 次のいずれかの手順に従います。

   - 新しい警報先リストを作成するには、**[新しい警報先リスト]** をクリックします。

     または

   - 既存の警報先リストを変更するには、変更するリストの横にある **[編集]** をクリックします。

   [警報 - セットアップ] 画面が表示されます。

2. **[リスト名]** フィールドに、サービスまたはサプライ品などの名前を入力します。

3. 警報を受信するユーザーの電子メール アドレスを入力します。大規模な環境では、システム管理者は電子メール アドレスをリスト サーバ、URL、およびモバイル デバイスにルーティングして警報を拡張できます。各警報先をカンマまたはセミコロンで区切って複数の警報先を追加します。

4. この警報先リストで送信する警報のチェック ボックスをオンにします (製品で使用可能なすべての警報を表示するには、**[すべての警報を表示]** をクリックします)。

5. 警報のしきい値を設定できる場合は、しきい値を設定します。

   サービス警報と用紙経路警報のしきい値には、時間 (分) を指定します。この時間は、イベントが無視される時間で、この時間が経過すると電子メール警報メッセージが送信されます。たとえば、[トレイが開いています] 警報のしきい値を 10 分に指定すると、トレイをセットした後あるいは紙詰まりを解除した後にトレイを閉じるまでに 10 分間の余裕ができます。

6. **[コントロール パネルに表示しないメッセージの選択]** で、製品のコントロール パネルに表示しないメッセージを選択します。この手順は、警報として受信するように選択したメッセージでのみ実行できます。

   注記： ブラウザが JavaScript を受け付けない場合、メッセージを表示しないためのチェック ボックスは常に有効になります。チェック ボックスで選択した内容は、**[適用]** ボタンを押してページを送信すると有効になります。表示しないように選択した警報に対応する警報を選択しなかった場合は、**[警報 - セットアップ]** 画面が再度表示され、コントロール パネルに警報を表示しないようにするには、まず対応する警報を選択する必要があることを伝える警告メッセージが示されます。

7. 電子メール警報メッセージに含める添付ファイルを選択します。添付ファイルには次のページを含めることができます (これらのページの例については、**[情報]** タブを参照してください)。

   - サプライ品ステータス ページ
   - 使用状況ページ
   - プリンタ設定ページ
   - イベント ログ ページ
   - XML データ

   警報の受信先として選択した警報先のいずれかが自動化されているコンピュータ システムの場合は、**[XML データ]** オプションを選択してください。選択した各項目が電子メールに添付されます。たとえば、**[使用状況ページ]** と **[イベント ログ ページ]** を選択した場合、各項目の添付ファイルがそれぞれ 1 つずつ添付された電子メール メッセージを受信します。**[XML データ]** オプションも選択した場合は、 [使用状況ページ] の HTML 形式の添付ファイル、[イベント ログ] の

HTML 形式の添付ファイル、Instant Support 情報の添付ファイル (拡張子 .XML のテキスト ファイル形式) の 3 つのファイルが添付された電子メール メッセージを受信します。

8. **[適用]** をクリックして情報を保存します。

9. 各追加リストまたは警報先で手順 1 から 7 を繰り返します。

警報先リストの設定をテストするには、以下の手順に従います。

警報先リストの設定をテストするには

1. テストする警報先リストの横にある **[テスト]** ボタンをクリックします。

   以下のウィンドウが表示されます。

   図 3-6 [警報 - テスト] 画面

2. テストする警報先を選択します。

3. 返信先アドレスは製品の電子メール アドレスです。テスト警報で生成されたすべてのエラーに関するメッセージを受信するには (警報先アドレスが正しくない場合にそれが通知されるようにするなど)、**[返信先アドレス]** ボックスに自分の電子メール アドレスを入力します。

4. 必要に応じて、**[メモ (オプション)]** フィールドにテキストを入力します。このテキストは、電子メール警報メッセージの先頭に追加して表示されます。

5. **[OK]** をクリックします。

警報先と警報先リストを削除するには

1. 複数の警報先を設定している場合は、警報先または警報先リストの横にある **[削除]** ボタンをクリックして、警報先または警報先リストを削除できます。

2. **[OK]** をクリックして削除を確認します。

自動送信

[自動送信] 画面は、製品の設定情報やサプライ品の使用状況に関する情報を、定期的に送信するために使用します。送信先は、サービス プロバイダなど、自由に指定できます。この機能を使用して、Hewlett-Packard 社やその他のサービス プロバイダは、プリント カートリッジの交換、ページ毎の支払い契約、サポート契約、使用状況のトラッキングなど、さまざまなサービスを提供するための情報を入手して利用できるようになります。各ユーザーは、最大 20 個の自動送信先を登録できます。以下の図、表、および手順に、この画面の使用方法を示します。

図 3-7 [自動送信] 画面

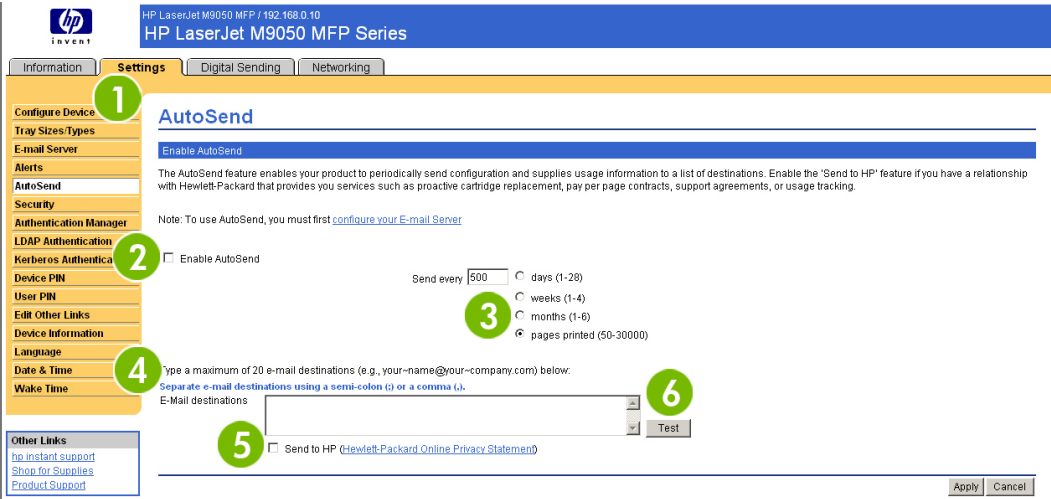



表 3-5 自動送信

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	自動送信を有効にする	自動送信機能をオンにするには、このチェック ボックスをオンにします。
3	次の頻度で 1 回送信 [間隔]	製品の設定情報やサプライ品の使用状況に関する情報を、**[電子メールの送信先]** フィールドに設定されている送信先に送信する頻度を選択します。
4	電子メールの送信先	製品の設定情報を送信する電子メール アドレスを最大 20 個まで記載したリストを保存できます。最初の電子メール アドレスの文字数は 50 文字以内でなければなりません。
5	HP へ送信	デバイスの設定とサプライ品のステータス情報を HP に定期的に送信するには、このチェック ボックスをオンにします。情報は、ファイル拡張子が .XML のテキスト形式のファイルで HP の電子メール アドレス (例: myproduct@hp.com) に送信されます。このファイルは英語で作成されます。 自動送信機能によって送信された情報を HP がどのように取り扱うかについての詳細を確認するには、**[Hewlett-Packard オンライン プライバシ ステートメント]** をクリックしてください。
6	テスト	このボタンをクリックすると、設定が保存され情報が直ちに送信されるので、受信者がメッセージを受信できるかどうかが確認できます。

自動送信機能を有効にするには

自動送信機能を有効にするには、以下の手順に従います。

1. この章で説明している手順に従って、送信電子メール機能を使用できるようにします (詳細については、「27 ページの 「電子メール サーバ」」を参照してください)。
2. **[自動送信を有効にする]** チェック ボックスをオンにします。
3. 電子メールの受信者に製品の設定情報とサプライ品の使用状況に関する情報を送信する間隔を指定します。送信間隔は、[日]、[週]、[月]、または [印刷されたページ数] のいずれかを選択し、値を入力して指定します。
4. 画面に表示されるフォームを使用して、送信先 (最大 20 個) を指定します。
5. デバイスの設置とサプライ品のステータスに関する情報を HP に送信するには、**[HP へ送信]** チェック ボックスをオンにします。
6. **[適用]** をクリックします。

セキュリティ

以下の図と表に、[セキュリティ] 画面の使用方法を示します。

図 3-8 [セキュリティ] 画面

表 3-6 セキュリティ

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」を参照してください。
2	パスワード設定	許可されていないユーザーによる HP 内蔵 Web サーバへのアクセスを防ぐには、セキュリティ パスワードを設定します。
3	オプションの設定	[情報] タブに [印刷ページ] を表示するかを設定したり、デバイス ステータス ページに表示するオプションを選択することができます。
4	ダイレクト ポート	ローカル ポートを無効化し、ネットワーク接続を通じた印刷アクセスのみを許可します。

認証マネージャ

[認証マネージャ] 画面では、ユーザーがログインしないと使用できないデバイス機能を設定します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 3-9 [認証マネージャ] 画面

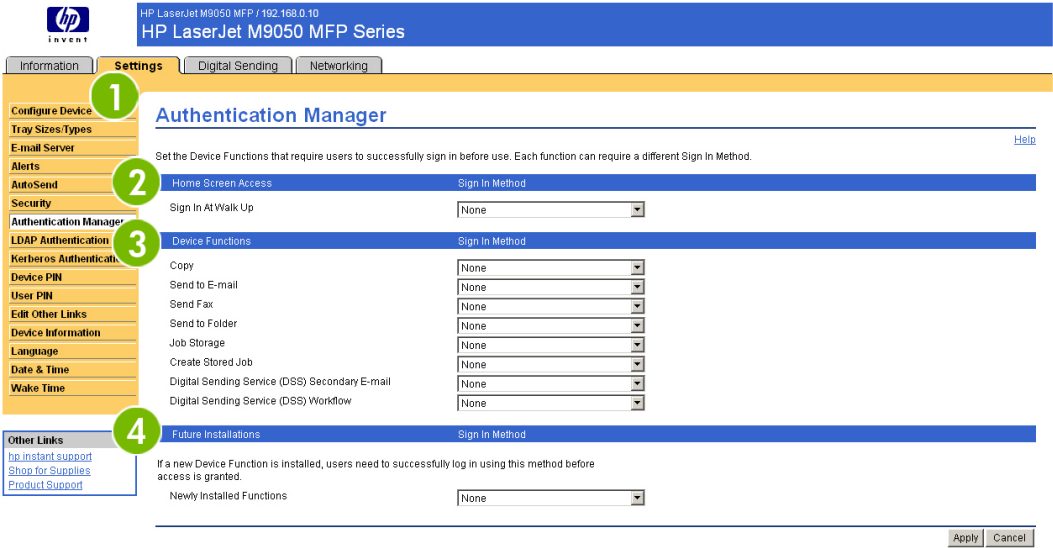



表 3-7 認証マネージャ

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ホーム画面アクセス	[ホーム] 画面にアクセスするためのログイン方法を指定します。
3	デバイス機能	以下の機能にアクセスするためのログイン方法を指定します。 ● コピー ● 電子メールへの送信 ● ファックス送信 ● フォルダに送信 ● ジョブの保存 ● 保存ジョブの作成 ● デジタル送信サービス (DSS) セカンダリ電子メール ● デジタル送信サービス (DSS) ワークフロー
4	今後のインストール対象	将来インストールされる新機能にアクセスするためのログイン方法を指定します。

LDAP 認証

[LDAP 認証] ページは、デバイス ユーザーを認証するための LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) サーバを設定するのに使用します。[認証マネージャ] ページの 1 つまたは複数のデバイス機能のログイン方法として [LDAP 認証] を選択した場合、ユーザーがこれらの機能にアクセスするには、有効な認証情報 (ユーザー名とパスワード) を入力する必要があります。

認証は、2 つの独立した部分で構成されています。デバイスは、まずユーザーの認証情報を LDAP サーバに対して確認します。デバイスのユーザーが有効な認証情報を指定して認証された場合、デバイスはユーザーの電子メール アドレスと名前を検索します。いずれかの手順が失敗すると、ユーザーは、LDAP 認証が必要であると設定されている機能へのアクセスが拒否されます。

[LDAP 認証] ページを使用して LDAP サーバにアクセスし、ユーザー情報を検索するのに使用するパラメータを設定できます。このページは、[認証マネージャ] ページの [サインイン方法] で [LDAP] を選択した場合にのみ適用されます。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 3-10 [LDAP 認証] 画面

表 3-8 LDAP 認証

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	LDAP サーバのバインド方法	[LDAP サーバのバインド方法] 設定は、デバイスが LDAP サーバにどのようにアクセスするかを決定します。最適な方法については、LDAP サーバ管理者にお問い合わせください。 ● シンプル - 選択した LDAP サーバは暗号化をサポートしません。パスワードを入力した場合、パスワードも暗号化されていない状態でネットワーク経由で送信されることに注意してください。 ● シンプル (SSL 経由) - 選択した LDAP サーバは、SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルを使用して暗号化をサポートします。ユーザー名とパスワードを含むすべてのデータが暗号化されます。LDAP サーバは、SSL をサポートするように設定する必要があります。これには、身元情報を確定する認証の設定も含まれます。

表 3-8 LDAP 認証 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
		また、デバイスのネットワーク インタフェースを認証局 (CA) 証明書とともに設定して、LDAP サーバを検証する必要があります。CA 証明書は、Web インタフェースの [ネットワーキング] タブで設定します。一部の LDAP サーバ設定では、クライアント証明書も要求され、これも [ネットワーキング] タブで設定します。
3	LDAP サーバ	[LDAP サーバ] 設定は、デバイス ユーザーを認証するのに使用する LDAP サーバのホスト名または IP アドレスです。SSL を使用する場合は、ここに入力した名前とアドレスが、サーバが送信する証明書の名前と一致する必要があります。 アドレスを縦棒 (「|」、ASCII 0x7c) で区切ることで、このフィールドに複数のサーバを指定することができます。この機能は、プライマリ サーバとバックアップ サーバを指定する場合などに使用できます。ネットワーク インタフェースは、1 つの認証局 (CA) 証明書のみをサポートしているため、リスト内のすべての LDAP サーバは同じ CA を使用する必要があります。
4	ポート	[ポート] 設定とは、サーバが LDAP 要求を処理している TCP/IP ポート番号のことです。通常、バインド方法が [シンプル] の場合はポート 389 で、[シンプル (SSL 経由)] の場合はポート 636 です。
5	デバイスのユーザーの認証情報を使用	[デバイスのユーザーの認証情報を使用] 方法では、バインド プレフィックスを使用します。これは、ユーザー DN (Distinguished Name: 識別名) を構成するために、ユーザーがコントロール パネルと [バインドおよび検索ルート] に入力する文字列です。構成済みのユーザー DN は、ユーザーを認証する目的で使用されます。 [バインド プレフィックス] 設定は、認証用のユーザーの識別名 (DN: Distinguished Name) を構成するのに使用される LDAP 属性です。このプレフィックスは、コントロール パネルに入力したユーザー名と組み合わせて、相対識別名 (RDN: Relative Distinguished Name) を形成します。通常使用されるプレフィックスは「CN」(common name (一般名) の略) または「UID」 (user identity (ユーザー ID) の略) です。
6	LDAP 管理者の認証情報を使用	[LDAP 管理者の認証情報を使用] では、管理者のユーザー DN の構成を試みる代わりに、管理者のユーザー DN の検索を試みます。 [Administrator DN (管理者 DN)] とは、LDAP ディレクトリに対する読み取りアクセス権を持つユーザーの DN のことです。ここで入力するアカウントは、ディレクトリに対する管理者アクセス権を持っている必要はありません。読み取りアクセス権で十分です。 [Administrator Password (管理者パスワード)] とは、[Administrator DN (管理者 DN)] フィールドに入力したユーザー DN を持つユーザーのパスワードのことです。
7	バインドおよび検索ルート	[デバイスのユーザーの認証情報を使用] 方法を選択した場合は、認証の両方の段階で [バインドおよび検索ルート] の値が使用されます。認証情報の検証段階で、この値は RDN に組み合わされてユーザーの完全な識別名 (DN) が構成されます。ユーザー情報の検索段階で、この値は検索が開始される LDAP エントリの DN です。 [LDAP 管理者の認証情報を使用] 方法を選択した場合、[バインドおよび検索ルート] は検索ルートとしてのみ使用されます。LDAP ディレクトリのベースの検索ルートを指定することができます。デバイスは、LDAP ツリー全体で、デバイスに入力したユーザー名に対応するユーザー オブジェクトを検索します。
8	LDAP 属性と共に	LDAP データベース内でデバイス ユーザーの情報を検索するときに、このフィールドに指定した属性の内容が、認証時に入力したユーザー名と比較されます。この属性は、通常、[バインド プレフィックス] と同じです。
9	次の属性を使用する電子メール アドレス	LDAP データベースでデバイス ユーザーが見つかった後に、[次の属性を使用する電子メール アドレス...] フィールドに指定した LDAP 属性を使用して、ユーザーの電子メール アドレスがデータベースから取得されます。

表 3-8 LDAP 認証 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
10	および属性を使用する名前	ユーザーの表示名が [および属性を使用する名前] フィールドに指定した LDAP 属性から取得されます。
11	テスト	テスト機能は、設定を適用する前に設定の有効性をテストするのに使用します。このボタンをクリックすると、デバイスのコントロール パネルでログインする場合と同様に、ユーザー認証情報を入力するように求められます。入力した認証情報が認証され、LDAP データベース内でユーザー情報が見つかった場合、ログインが成功したことを示すメッセージが表示されます。そうでない場合は、認証が失敗した理由を示すエラー メッセージが表示されます。

Kerberos 認証

Kerberos 領域に対してユーザーを認証するようにデバイス (多機能周辺機器 (MFP) または Digital Sender) を設定するには、[Kerberos 認証] ページを使用します。[認証マネージャ] ページで 1 つまたは複数のデバイス機能のログイン方法として [Kerberos 認証] を選択した場合、ユーザーがこれらの機能にアクセスするには、有効な認証情報 (ユーザー名、パスワード、および領域) を入力する必要があります。

認証は、2 つの独立した部分で構成されています。デバイスは、まずユーザーの認証情報を KDC に対して確認します。デバイスのユーザーが有効な認証情報を指定して認証された場合、デバイスはユーザーの電子メール アドレスと名前を検索します。いずれかの手順が失敗すると、ユーザーは、Kerberos 認証が必要であると設定されている機能へのアクセスが拒否されます。

[Kerberos 認証] ページを使用して LDAP サーバにアクセスし、ユーザー情報を検索するのに使用するパラメータを設定できます。このページは、[認証マネージャ] ページの [ログイン方法] で [Kerberos バージョン 5] を選択した場合にのみ適用されます。

以下の図、表、および手順に、この画面の使用方法を示します。

図 3-11 [Kerberos 認証] 画面

表 3-9 Kerberos 認証

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」を参照してください。
2	Kerberos デフォルト領域	[Kerberos デフォルト領域] は、Kerberos 領域 (ドメイン) に対応する完全認証されたドメイン名です。
3	Kerberos サーバー ホスト名	[Kerberos サーバー ホスト名] は、DNS (Domain Name Service: ドメイン ネーム サービス) が利用可能で正しく設定されている場合は、[Kerberos デフォルト領域] と同

表 3-9 Kerberos 認証 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
		じ値を設定することができます。デバイスは、DNS を使用して、ネットワーク上で最初に使用可能な KDC (Kerberos Domain Controller: Kerberos ドメイン コントローラ) を検索します。DNS が使用できない場合は、Kerberos サーバの IP アドレスを使用できます。
4	Kerberos サーバー ポート	[Kerberos サーバー ポート] とは、Kerberos の認証方法によって使用されるデフォルト IP ポートのことです。デフォルトはポート 88 ですが、ネットワーク環境ごとに異なる値を設定できます。デフォルト ポートが機能しない場合は、適切なポートを判断するために、IT 管理者にお問い合わせください。
5	LDAP サーバのバインド方法	[LDAP サーバのバインド方法] は、デバイスが LDAP サーバにどのようにアクセスするかを決定します。
6	認証情報	[認証情報] 設定セクションは、LDAP サーバへのバインド (認証) を行うときに、どの認証情報を使用するかを決定します。 ● [デバイスのユーザーの認証情報を使用] を選択した場合は、LDAP サーバにアクセスするために、デバイスのユーザー認証情報 (そのデバイスのコントロール パネルから入力したもの) が使用されます。この方法には、期限切れになる可能性のあるユーザー名とパスワードを、デバイスの中に保存する必要がないという利点があります。 ● [公開認証情報を使用] が選択され、ユーザー認証情報が使用できない場合は、LDAP サーバにアクセスするために、入力済みのユーザー名とパスワードが使用されます。何らかの理由で、デバイスのユーザーが LDAP データに対する読み取りアクセス権を持っていない場合は、この方法を使用する必要があります。
7	LDAP サーバ	Windows の Active Directory 環境では通常、LDAP サーバは Kerberos サーバと同じです。
8	ポート	[ポート] は、LDAP プロトコルが LDAP サーバと通信するために使用する IP ポートのことです。通常は、ポート 389 またはポート 3268 です。
9	検索ルート	[検索ルート] は、アドレスの検索を開始する LDAP ディレクトリ構造内のエントリの識別名 (DN) です。識別名は、カンマで区切られた「<属性>=<値>」で構成されます。 **注記：** 一部の LDAP サーバでは、検索ルートを空のままにしておくこともできます (この場合、ルート ノードを指定したとみなされます)。検索ルートでは、大文字と小文字は区別されません。
10	LDAP 属性と共に	LDAP データベースでデバイス ユーザーが見つかった後に、[入力された名前を照合] フィールドに指定した LDAP 属性を使用して、ユーザーの名前がデータベースから取得されます。
11	次の属性を使用する電子メール アドレス	LDAP データベースでデバイス ユーザーが見つかった後に、[次の属性を使用する電子メール アドレス] フィールドに指定した LDAP 属性を使用して、ユーザーの電子メール アドレスがデータベースから取得されます。Windows の Active Directory 環境では、この属性は通常、mail です。

Kerberos 認証タスク

Kerberos はネットワーク認証プロトコルです。セッション チケットとともに配信される秘密鍵を使用して、クライアント/サーバ アプリケーションにセキュリティ保護された認証を提供するように開発されています。

ここで説明している手順を実行する前に、以下の手順を実行する必要があります。

1. Microsoft LDP ツールをインストールします。
2. LDAP サーバを検出します。
3. LDP を設定します。

これらの手順を実行したら、次の44 ページの 「Kerberos 認証の初期化」の手順を実行します。

Kerberos 認証の初期化

以下の手順に従って、製品の Kerberos 認証を初期化します。

注記： 内蔵 Kerberos 認証は、認証プロセスでセッション チケットを使用します。セッション チケットには、キー配布センター (KDC) と製品の両方によってタイム スタンプが付けられます。それぞれのタイム スタンプの違いは 5 分以内でなければなりません。そのためには、KDC と製品の時刻を同じに設定します。

1. Web ブラウザで HP EWS を開きます。
2. **[設定]** タブを選択して、**[Kerberos 認証]** を選択します。
3. **[Kerberos 認証サーバーにアクセス中]** セクションで、以下の手順を実行します。
   a. **[Kerberos デフォルト領域 (ドメイン)]** フィールドにドメイン名を入力します。ドメイン名では大文字と小文字が区別され、大文字のみを使用する必要があります。たとえば、TECHNICAL.MARKETING のように入力します。
   b. **[Kerberos サーバー ホスト名の入力]** フィールドにサーバーの IP アドレスを入力します。たとえば、 15.62.64.203 (IP アドレス) のように入力します。

   注記： **[Kerberos サーバー ポート]** フィールドは、自動的に **[88]** と入力されます。
4. **[LDAP サーバにアクセスしています]** セクションで、以下の手順を実行します。
   a. **[LDAP サーバのバインド方法]** ドロップダウン メニューから **[Kerberos]** を選択します。
   b. 使用する認証方法をクリックして選択します。

   [公開認証情報を使用] を選択した場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

   注記： LDP 画面でどのようにユーザー名を設定したかに注意してください。ユーザー名は、LDP トレースのデバイス ユーザーの DN 値内に定義されていて、標準の Windows ドメイン アカウント フォーマットではありません。フォーマットは通常、完全な電子メール アドレスで、@xx.xx も含まれます。

c. **[LDAP サーバ]** フィールドに LDAP サーバを入力します。

d. **[ポート]** フィールドに「389」と入力します。

5. **[LDAP データベースを検索中]** セクションで、以下の手順を実行します。

a. **[検索ルート]** フィールドに検索プレフィックスを貼り付けます。

b. **[LDAP 属性と共に]** フィールドに「sAMAccountName」と入力します。

c. LDP トレースでデバイス ユーザーの電子メール アドレスを検索します。電子メール アドレスを定義している属性をコピーして、**[Retrieve the device user's e-mail address using attribute of]** フィールドに貼り付けます。

一部の Kerberos 環境では、非常に特殊な属性を使用する必要があります。ここでは、mail の代わりに userPrincipalName 属性を使用しています。

d. LDP トレースで、デバイス ユーザーの **[属性を使用する名前]** を探します。名前を定義している属性をコピーして、それを **[および属性を使用する名前]** フィールドに貼り付けます。

注記： Kerberos 環境では、displayName の代わりに cn を使用する必要があります。

e. **[適用]** をクリックします。

これらの手順が完了したら、次の「45 ページの 「Kerberos 認証の認証マネージャの設定」」の手順に進みます。

Kerberos 認証の認証マネージャの設定

以下の手順に従って、製品の Kerberos 認証の設定を続けます。

1. HP EWS の **[設定]** タブの **[認証マネージャ]** をクリックします。

2. 以下の手順を実行します。

a. **[ホーム画面アクセス]** セクションで、**[スリープ復帰時にサインイン]** ドロップダウン メニューから **[Kerberos]** を選択します。

b. **[デバイスの機能]** セクションで、認証する機能のドロップダウン メニューから **[Kerberos]** を選択します。

c. オプション: **[今後のインストール対象]** セクションの [新規にインストールした機能] ドロップダウン メニューから **[Kerberos]** を選択します。このオプションを選択することで、新しいデバイス機能が製品にインストールされたときに、それらに Kerberos 認証が自動的に適用されます。

3. **[適用]** をクリックします。

これらの手順が完了したら、次の「45 ページの 「Kerberos 認証のアドレス設定」」の手順に進みます。

Kerberos 認証のアドレス設定

以下の手順に従って、製品の Kerberos 認証の設定を続けます。

1. HP EWS の **[デジタル送信]** タブの **[LDAP 設定]** をクリックします。

2. **[デバイスから LDAP アドレス帳への直接アクセスを許可する]** チェック ボックスをクリックしてオンにします。

3. **[Accessing to LDAP Server]** セクションで、以下の手順を実行します。

   a. **[LDAP サーバのバインド方法]** ドロップダウン メニューから **[Kerberos]** を選択します。

   注記： Kerberos 認証が正しく機能するためには、**[アドレス設定]** 画面と **[Kerberos 認証]** 画面の [LDAP サーバのバインド方法] が一致している必要があります。

   b. **[認証情報]** で **[公開認証情報を使用]** オプションをクリックして選択します。

      ◦ [ユーザー名] と [パスワード] を入力します。

      ◦ [Kerberos デフォルト領域 (ドメイン)] を入力します。たとえば、TECHNICAL.MARKETING のように入力します。

      ◦ [Kerberos サーバー ホスト名] を入力します。たとえば、「myserver.hp.com」と入力します。

      ◦ [Kerberos サーバー ポート] を入力します。たとえば、88 のように入力します。

   c. [LDAP サーバ] を入力します。たとえば、15.98.10.51 のように入力します。

   d. ポート番号を入力します。たとえば、389 のように入力します。

4. **[データベースの検索]** セクションで、以下の手順を実行します。

   a. **[検索ルート]** フィールドに検索プレフィックスを入力します。

   b. **[デバイス ユーザー情報の取得方法]** ドロップダウン メニューの 3 つのオプションのいずれかを選択します。適切なオプションはネットワーク環境によって異なります。

      ◦ LDAP アドレス設定で Exchange 5.5 サーバを使用している場合は、**[Exchange 5.5 のデフォルト]** を選択します。

      ◦ Windows 2000 以降のネットワーク環境の場合は、**[アクティブ ディレクトリのデフォルト]** を選択します。

      ◦ 特殊なネットワーク環境の場合は、**[カスタム]** を選択します。

5. **適用** をクリックします。

これらの手順が完了したら、次の「46 ページの 「MFP コントロール パネルを使用した Kerberos 認証の設定」」の手順に進みます。

MFP コントロール パネルを使用した Kerberos 認証の設定

以下の手順に従って、製品の Kerberos 認証の設定を完了します。

1. MFP で、コントロール パネルのメイン画面の任意のオプションをタッチします。画面に認証の要求が表示されます。

   注記： ユーザー名は、LDP トレースのデバイス ユーザーの DN 値内に定義されていて、通常、@xx.xx を含む完全な電子メール アドレスです。

2. MFP コントロール パネルのタッチ スクリーン キーパッドを使用して認証を入力し、**[OK]** をクリックします。電子メールなど、選択したオプションが表示されます。

デバイス PIN 認証

[認証マネージャ] ページの 1 つまたは複数の [デバイスの機能] で [PIN 認証] を選択した場合、ユーザーはこれらの [デバイスの機能] にアクセスする前に、PIN の入力を要求されます。PIN の入力が正しくなかった場合、ユーザーは前の画面に戻ります。PIN を正しく入力した場合、ユーザーは、その PIN を使用するすべての機能にアクセスできるようになります。たとえば、[コピー] を [グループ 1] の PIN、[電子メール] と [ファックス] を [グループ 2] の PIN に設定できます。

以下の図に、**[デバイス PIN 認証]** 画面を示します。

図 3-12 [デバイス PIN 認証] 画面

ユーザー PIN 認証

[ユーザー PIN 認証] ページを使用すると、デバイスに対する一度に 1 つのユーザー PIN レコードの追加と、すでにデバイスに保存されたユーザー PIN レコードの編集または削除を実行できます。

また、一度に 1 つずつ追加する代わりに、デバイスの [インポート/エクスポート] 機能を使用して大きなユーザー リストを一度にロードすることもできます。

各ユーザーがデバイスにアクセスするときに、自分の PIN を入力するようデバイスを設定することもできます。この認証オプションを設定するには、次の手順に従います。

- [デジタル送信の詳細設定] に該当するデバイスでは、[EWS の設定] タブを使用し、[認証マネージャ] を選択し、次に [スリープ復帰時にサインイン] と [電子メール送信] の各ドロップダウン メニューから [ユーザー PIN] を選択します。
- [Digital Send Simple (デジタル送信の簡易設定)] に該当するデバイスでは、ユーザー PIN レコードがデバイスに対して追加された直後に、ユーザー アカウントを持つユーザーだけがそのデバイスにアクセスできるように自動的に制限が加えられ、コントロール パネルですべてのユーザーに対して PIN の入力が要求されるようになります。

以下の図に、**[ユーザー PIN 認証]** 画面を示します。

図 3-13 [ユーザー PIN 認証] 画面

新規ユーザーを追加

[新規ユーザーを追加...] をクリックすると、新規ユーザーと PIN を追加できます。自動的に [ユーザーを追加] ページに移動します。ここには、タスクを完了するための手順が掲載されています。

新規ユーザーの追加

新規ユーザーと PIN を追加するには、次の手順に従います。

1. [新規ユーザーを追加...] をクリックします。[ユーザーを追加] ページが表示されます。
2. [名前] フィールドに、ユーザーの名前を入力します。最大の長さは 245 文字です。使用している言語によっては、これより短くなります。
3. [電子メール アドレス] フィールドに、ユーザーの電子メール アドレスを入力します。長さは 255 文字未満にする必要があります。

注記： デバイスで電子メール アドレスの確認機能が有効になっている場合は、その電子メール アドレスの中に「@」記号が含まれている必要があります。

4. [ユーザー アクセス PIN] フィールドに、ユーザー PIN を入力します。長さは 4 ～ 8 桁である必要があります。
5. 新規ユーザーの電子メール アドレスをデバイスのアドレス帳に追加する場合は、[ユーザーを自動的に電子メール アドレス帳に追加する] チェック ボックスをオンにします。
6. [適用] をクリックして新規ユーザーと PIN をデバイスに保存します。

既存ユーザーの編集または削除

デバイスに保存された任意のユーザーを編集または削除することもできます。

ユーザーの編集

既存ユーザーを編集するには、次の手順に従います。

1. 編集するユーザーをユーザー リストから選択します。[検索] フィールドに、特定のユーザーの名前を入力することもできます。
2. [ユーザーを編集...] をクリックします。[ユーザーを編集] ページが表示されます。
3. [名前]、[電子メール アドレス]、[ユーザー アクセス PIN] の各フィールドで、必要な変更を加えます。
4. [適用] をクリックして編集結果を保存します。

ユーザーの削除

既存エントリを削除するには、次の手順に従います。

1. 削除するユーザーをユーザー リストから選択します。[検索] フィールドに、特定のユーザーの名前を入力することもできます。
2. [ユーザーを削除...] をクリックします。[ユーザーを削除] ページが表示されます。

注記： デバイスからすべてのユーザー PIN レコードを削除するには、[すべてのユーザーを削除] をクリックします。最初にユーザー レコードのバックアップを作成するには、デバイスの [インポート/エクスポート] 機能を使用してこの作業を実行できます。

3. 表示されるページで、選択したユーザーを削除することを確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックし、選択内容を確認します。ユーザー レコードが削除されます。

その他のリンクの編集

[その他のリンクの編集] 画面は、目的の Web サイトに最大 5 つのリンクを追加したり、カスタマイズするのに使用します。これらのリンクは、HP EWS のすべての画面で、左側のナビゲーション バーの下の **その他のリンク** ボックスに表示されます。3 つの固定リンク (**[hp Instant Support]**、**[サプライ品の購入]**、および **[製品サポート]**) が設定されています。以下の図、表、および手順に、この画面の使用方法を示します。

図 3-14 [その他のリンクの編集] 画面

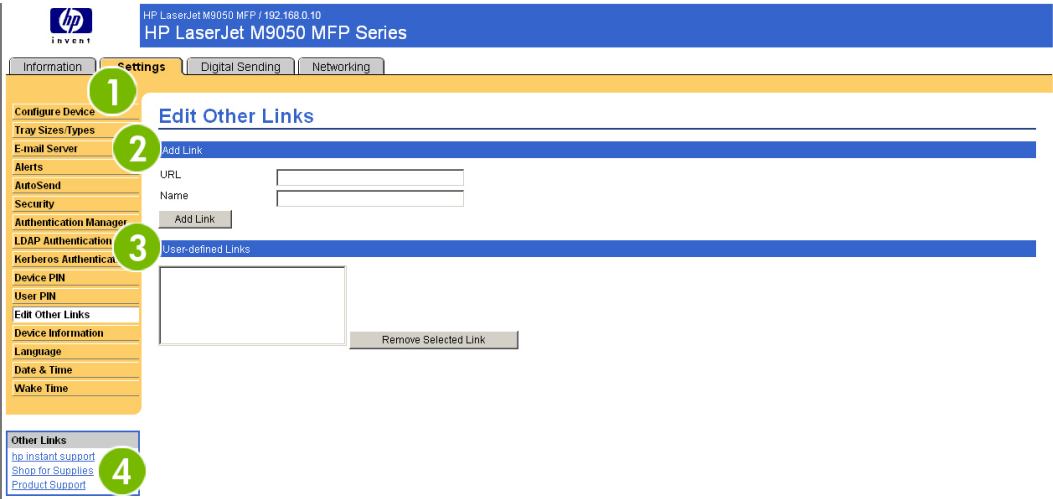



表 3-10 その他のリンクの編集

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能	
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」を参照してください。	
2	リンクを追加	ユーザー定義リンクを追加します。	
3	ユーザ定義のリンク	追加されたユーザー定義リンクが表示されます。リンクを削除するには、この領域を使用します。	
4	その他のリンク	**[hp Instant Support]**	特定の問題を解決するのに役立つ Web リソースに接続したり、製品で使用可能な追加サービスを確認することができます (シリアル番号、エラー状況、およびステータスなどの詳細情報が HP カスタマ・ケアに転送されます。Hewlett-Packard 社はこの情報を機密情報として取り扱います)。
		[サプライ品の購入]	サプライ品をオンラインで注文することができる Web ページに接続します。
		[製品サポート]	HP Web サイトに掲載されている特定の製品のヘルプにアクセスできます。

リンクの追加

リンクを追加するには、以下の手順に従います。

1. **[リンクを追加]** に、リンクの URL と HP EWS に表示するリンク名を入力します。
2. **[リンクを追加]** をクリックします。

リンクの削除

リンクを削除するには、以下の手順に従います。

1. **[ユーザー定義のリンク]** で、削除するリンクを選択します。
2. **[選択したリンクを削除]** をクリックします。

デバイス情報

[デバイス情報] 画面は、デバイス名を指定したり、アセット番号を割り当てたり、会社名、デバイスの管理担当者、デバイスの物理的な設置場所を設定するのに使用します。この画面には、デバイスの名前、デバイス モデル、およびシリアル番号も表示されます。

図 3-15 [デバイス情報] 画面

注記： [デバイス情報] 画面で変更を行った場合は、**[適用]** をクリックして変更を保存します。

ここに入力した情報は、**[情報]** タブから表示可能な [デバイス情報] 画面に表示されます。また、製品が送信する電子メール メッセージにも表示されます。この情報は、サプライ品を交換したり、問題を解決する際に製品の設置場所を把握するのに便利です。

言語

[言語] 画面は、HP EWS の画面に表示される言語を選択するのに使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

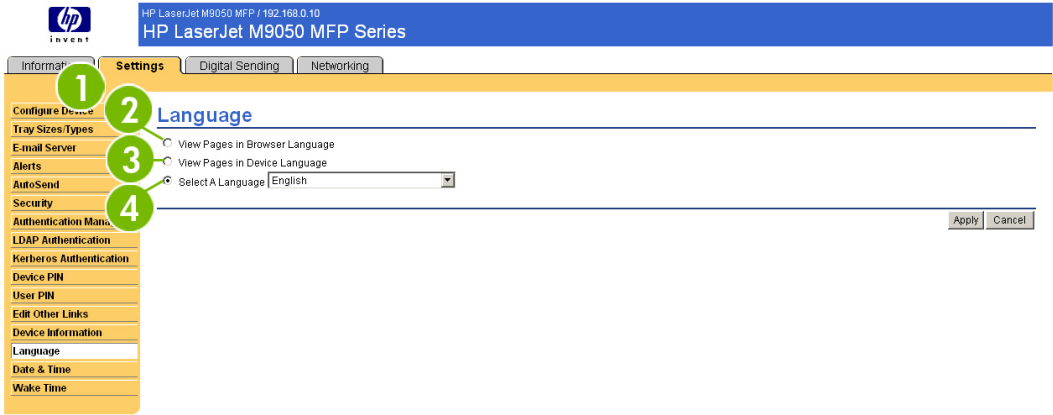
図 3-16 **[言語]** 画面

△ 注意： **[プリンタ語でページを表示します]** または **[言語を選択]** を選択すると、HP EWS を使用するすべてのユーザーの言語が変更されます。

表 3-11 言語

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ブラウザ語でページを表示します (これはデフォルトの設定です)	この機能は、Web ブラウザで選択されている言語を検出して、 HP EWS の画面を同じ言語で表示するのに使用します。
3	プリンタ語でページを表示します	この機能は、デバイスのコントロール パネルで選択されている言語を検出して、 HP EWS の画面を同じ言語で表示するのに使用します。
4	言語を選択	HP EWS 画面の言語を選択します。

注記： デフォルトの言語は、Web ブラウザで現在使用している言語です。ブラウザとコントロール パネルの両方とも HP EWS が対応していない言語を使用している場合は、デフォルトで英語が選択されます。[言語] 画面で変更を行った場合は、**[適用]** をクリックして変更を保存します。

日付と時刻

[日付と時刻] 画面は、製品の時刻を更新するのに使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 3-17 [日付と時刻] 画面

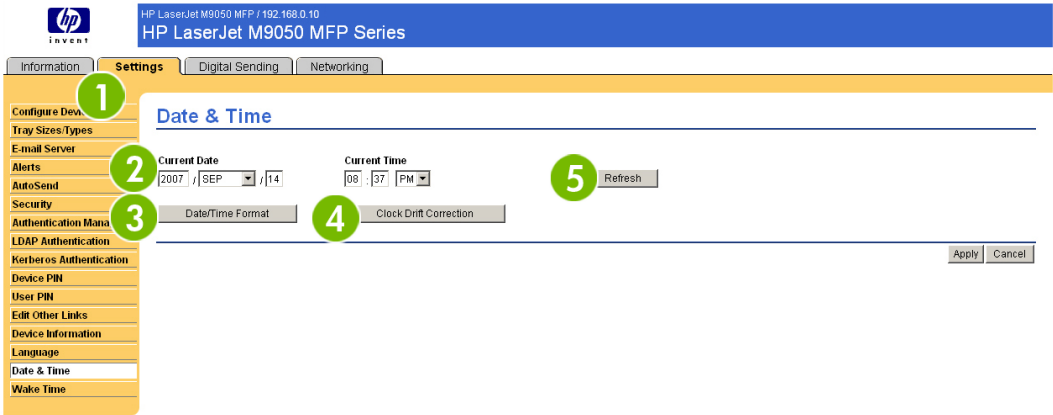



表 3-12 日付と時刻

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	現在の日付/現在の時刻	EWS を開いたときの製品の日付と時刻が示されます。いずれかが正しくない場合、IT 管理者は製品のコントロール パネルまたはこの HP EWS ページで変更することができます。
3	日付/時刻の形式	日付/時刻の形式を設定します。
4	クロックのドリフト補正	ネットワーク タイム サーバを設定するには、このボタンをクリックします。これにより、選択したネットワーク タイム サーバを使用してクロックのドリフトが補正されます。詳細については、55 ページの 「クロックのドリフト補正」 を参照してください。
5	更新	画面に表示される製品の日付と時刻を更新するには、このボタンをクリックします。詳細については、55 ページの 「日付/時刻の形式」 を参照してください。

日付/時刻の形式

[日付と時刻 - 形式] 画面で、日付や時刻の表示形式を選択できます。以下の図に、**[日付と時刻 - 形式]** 画面を示します。

図 3-18 [日付と時刻 - 形式] 画面

クロックのドリフト補正

[日付/時刻 - クロックのドリフト補正] 画面は、クロックのドリフト補正を有効にするのに使用します。以下の図に画面を示します。

図 3-19 [日付と時刻 - クロックのドリフト補正] 画面

製品のクロックのドリフトを補正するためのネットワーク タイム サーバを設定するには、以下の手順を使用します。

注記： この手順を実行することでクロックのドリフト (時間が遅れるまたは進む) は防止できますが、クロックはネットワーク タイム サーバのクロックと同期されません。

1. **[クロックのドリフト補正を有効にする]** チェック ボックスを選択します。

2. **[ネットワーク タイム サーバのアドレス]** フィールドに、製品のクロックのドリフトを補正するのに使用するクロックの TCP/IP アドレスまたはホスト名を入力します。

   注記： または、**[サーバの自動検索]** ボタンをクリックし、ネットワーク上でタイム サーバを検索して、このフィールドを自動的に入力することもできます。

3. **[ローカル ポートを使用してサーバから時刻を受信]** フィールドに、適切なポートの値を入力します。

4. **[OK]** をクリックします。

注記： この画面は、クロックの設定ではなく、クロックのドリフト補正用のタイム サーバの設定に使用します。クロックを設定するには、メインの **[日付と時刻]** 画面を使用します。詳細については、「54 ページの 「日付と時刻」」を参照してください。

スリープ復帰時刻

IT 管理者は **[スリープ復帰時刻]** 画面を使用して、製品のスリープ復帰時刻とスリープ遅延を日単位で設定することができます。たとえば、07:30 にスリープから復帰して、初期化と校正を完了し、08:00 までに製品が使用可能となるように設定できます。管理者は、曜日毎に異なるスリープ復帰設定を 1 つ設定できます。また、電力を節約するために、スリープ遅延を設定して、無操作状態が一定時間続いたら製品の電源を自動的にオフにすることもできます。

図 3-20 **[スリープ スケジュール] 画面**

表 3-13 **スリープ スケジュール**

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	スリープ復帰時刻	スリープ復帰設定を使用する曜日を 1 つまたは複数選択して、製品の電源をオンにする時刻を設定します。
3	スリープ遅延	製品がスリープ モードに入るまでのアイドル時間を設定します。スリープ モードでは、エネルギー消費量が少なくてすみます。

4 デジタル送信オプションの設定

管理者は、**[デジタル送信]** タブの画面を使用して、一部の製品が提供しているデジタル送信機能を制御することができます。

注記： 一部の製品でサポートされていない画面もあります。

全般的な設定

[全般的な設定] 画面は、デジタル送信管理者情報を設定するのに使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 4-1 [全般的な設定] 画面

表 4-1 全般的な設定

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	名前	管理者の名前を入力します。
3	電子メール アドレス	管理者の電子メール アドレスを入力します。正しくない形式の電子メール アドレスは拒否されます。
4	電話番号 (オプション)	管理者の電話番号を入力します (オプション)。
5	場所 (オプション)	管理者の場所を入力します (オプション)。
6	ヘルプ	クリックすると、**[デジタル送信]** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。

フォルダに送信

[フォルダに送信] 画面は、スキャンした文書を共有フォルダまたは FTP サイトに送信するのに使用します。

注記： このツールを使用して共有フォルダまたは FTP サイトを送信先として指定する前に、それらが使用可能になっている必要があります。

以下の図と表に、**[フォルダに送信]** 画面の使用方法を示します。

図 4-2 [フォルダに送信] 画面

表 4-2 [フォルダに送信] 画面の設定

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ヘルプ	クリックすると、**[デジタル送信]** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。
3	フォルダへの送信の有効化	デバイスの [フォルダに送信] 機能を有効にするには、[フォルダへの送信の有効化] チェック ボックスを選択します。有効にすると、デバイスのフロント パネルに [フォルダに送信] アイコンが表示されます。ユーザーはこのアイコンを選択して、この機能を使用することができます。
4	追加	新しい送信先フォルダを設定するには、[追加] をクリックします。
5	編集	事前定義フォルダの設定を表示または変更するには、[編集] をクリックします。
6	削除	事前定義フォルダのリストから選択したフォルダを削除するには、[削除] をクリックします。
7	すべて削除	リストからすべての事前定義フォルダを削除するには、[すべて削除] をクリックします。
8	フォルダ アクセスのテスト	デバイスが事前定義フォルダにアクセスできるかどうかをテストするには、[フォルダ アクセスのテスト] をクリックします。

表 4-2 **[フォルダに送信] 画面の設定 (続き)**

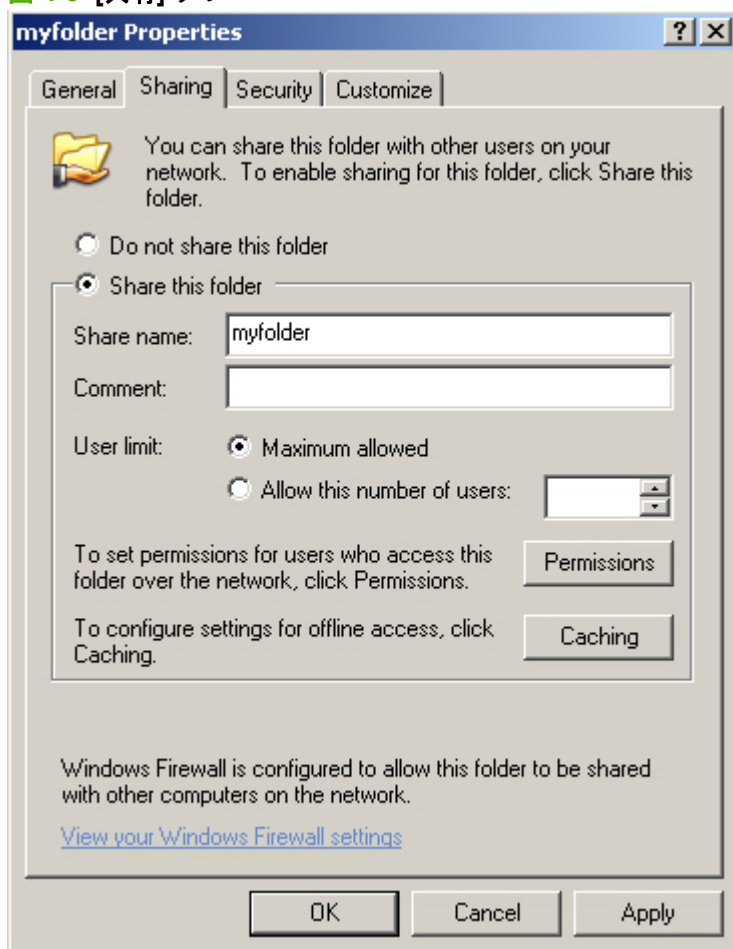
番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
9	WINS サーバ	[WINS サーバ] 設定は、WINS サーバのホスト名または IP アドレスを指定するのに使用します。送信先フォルダに Windows のパスとフォルダを使用する場合は、この設定を指定する必要があります。ワークステーションまたはサーバへのパスの形式が「\\ホスト名\\共有パス」の場合は、WINS サーバを指定する必要があります。 WINS サーバを検出するには、Windows タスク バーの **[スタート]** をクリックし、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]**、**[コマンド プロンプト]** の順にクリックします。**[コマンド プロンプト]** が表示されたら、「ipconfig /all」と入力します。 注記： 送信先のすべての共有フォルダのホスト名が IP アドレス (\\192.000.0.1\Topfolder など) で指定されている場合は、WINS サーバを指定する必要はありません。この場合は、WINS サーバを 0.0.0.0 に設定します。
10	NTLM 認証設定	[NTLM 認証] 設定は、コンピューティング環境で使用している認証設定を指定するのに使用します。通常使用されているデフォルト設定は、以下のとおりです。 ● Windows 95、Windows 98、および Windows Me ホスト - [LM および NTLM 暗号化パスワードの送信] を選択します。 ● Windows NT 4.0 (サービス パック 4 より前) - [NTLM 暗号化パスワードの送信] を選択します。 ● Windows NT 4.0 サービス パック 4 - [NTLM V2 認証の使用] を選択します。 ● Windows 2000 以降のオペレーティング システム - [NTLM V2 認証の使用] を選択します。 ● 混在環境 - [LM および NTLM 暗号化パスワードの送信] を選択します。
11	TIFF バージョン	ここには TIFF バージョンを指定します。

共有フォルダの追加

Windows で既に共有されているフォルダを追加できます。共有フォルダを作成するには、Windows XP で以下の手順に従います。その他の Windows オペレーティング システムの場合は、Windows エクスプローラの [ヘルプ] タブを開き、検索ボックスに「フォルダの共有」と入力します。**[ネットワークでドライブやフォルダを共有する]** をクリックすると、 共有フォルダの作成手順が表示されます。

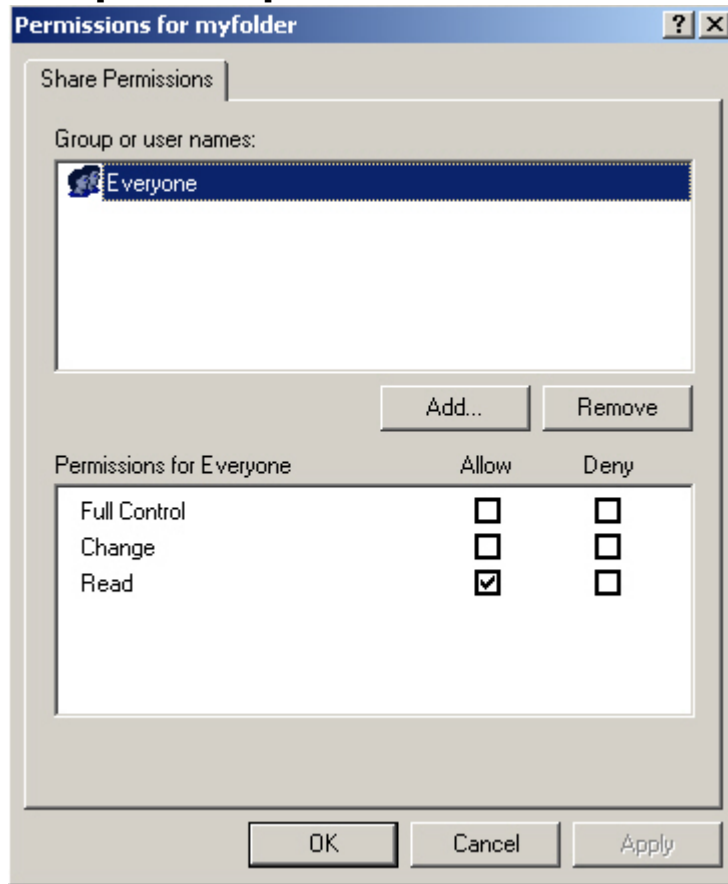
Windows XP でのフォルダの共有

1. **[Windows エクスプローラ]** または **[マイ コンピュータ]** で、共有するフォルダを右クリックし、**[共有とセキュリティ]** をクリックします。表示されるダイアログボックスでは、**[共有]** タブが選択されています。

図 4-3 **[共有]** タブ

2. **[このフォルダを共有する]** を選択します。ネットワーク上に表示されるフォルダ名を変更するには、**[共有名]** フィールドに新しい名前を入力します。

3. **[簡易ファイルの共有を使用する]** を選択した場合は、残りの手順を省略して **[OK]** をクリックします。選択しなかった場合は、手順 3 ～ 7 に従います。

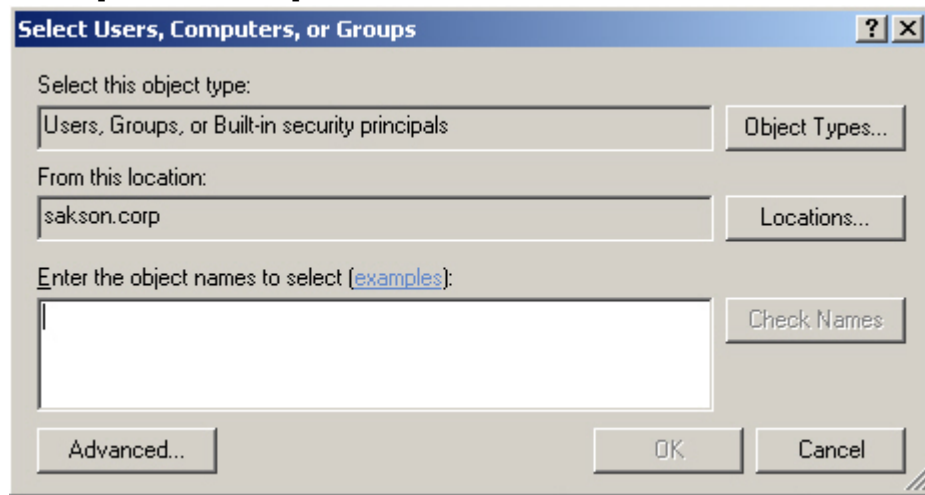
   a. **[アクセス許可]** ボタンをクリックします。

   図 4-4 **[アクセス許可]** ダイアログ ボックス

   b. すべてのユーザーがネットワークからそのフォルダにアクセスできるようにする場合は、**[Everyone]** をクリックし、**[フル コントロール]** の **[許可]** を選択し、**[OK]** をクリックします (手順 4 に進みます)。

   c. 一定のユーザーだけにフォルダへのアクセスを許可する場合は、 **[Everyone]** を選択し、**[削除]** をクリックします。

   d. **[追加]** をクリックします。

e. **[選択するオブジェクト名を入力してください]** フィールドに、フォルダへのアクセスを許可する最初のユーザー アカウント名を入力し、**[名前の確認]** をクリックします。

図 4-5 **[ユーザーの選択]** ダイアログ ボックス

f. 複数のユーザー アカウントを追加するには、最初のアカウント名の後ろにセミコロンを入力してから、追加するアカウントごとに上記の手順を繰り返します。各ユーザー アカウントは、**[コンピュータ名\ユーザー名]** の形式で表示され、セミコロンで区切られます。

g. 完了したら、**[OK]** をクリックします。

h. 各ユーザー アカウントのアクセス許可を変更するには、そのフォルダの **[アクセス許可]** ウィンドウで、そのユーザー アカウント名を 1 回クリックします。アカウント名がハイライトされたら、下のオプションで権限を許可または拒否できます。ユーザーに与えるアクセス許可の横にあるボックスをオンまたはオフにします。

注記： このフォルダにアクセスする各ユーザー アカウントについて、アクセス許可を変更する必要があります。

- **[読み取り]** を指定すると、ユーザーはそのフォルダ内のファイルを読み取ることができます。
- **[変更]** を指定すると、ユーザーはそのフォルダ内のファイルを追加、変更、削除できます。
- **[フル コントロール]** を指定すると、ユーザーはそのフォルダ内のファイルを読み取り、追加、変更、削除できるだけでなく、アクセス許可を変更したり、フォルダの所有権を持ったりすることができます。

4. すべてのユーザーのアクセス許可を設定したら、**[OK]** をクリックします。

5. **[セキュリティ]** タブをクリックし、**[追加]** をクリックします。**[セキュリティ]** タブが表示されない場合は、残りの手順を省略します。

6. 手順 3 で追加したすべてのユーザー アカウントを追加します。

   ● **[選択するオブジェクト名を入力してください]** フィールドに、フォルダへのアクセスを許可する各ユーザー アカウント名を入力し、**[名前の確認]** をクリックします。各アカウントは、**[コンピュータ名\ユーザー名]** の形式で表示され、セミコロンで区切られます。

   ● 完了したら、**[OK]** をクリックします。

7. **[適用]**、**[OK]** の順にクリックします。

フォルダのアイコンが、 に変わります。これは、このフォルダが共有されるようになったことを示します。共有フォルダへのアクセス権が設定されたアカウントのユーザー名とパスワードを知っているユーザーがフォルダにアクセスできます。フォルダ共有の設定が完了しました。他のネットワーク ユーザーと共有するすべてのフォルダについて、この手順を繰り返します。

[フォルダに送信] リストへの共有フォルダの追加

1. EWS の **[フォルダに送信]** 画面で [追加] をクリックします。これにより、デバイスでユーザーが選択する送信先フォルダを設定およびテストできます。[追加] をクリックすると、送信先タイプを選択する Web ページと共有フォルダを設定する Web ページが表示されます。両方のページで、設定を指定して、[OK] ボタンをクリックします。

図 4-6 [共有フォルダの追加] 画面

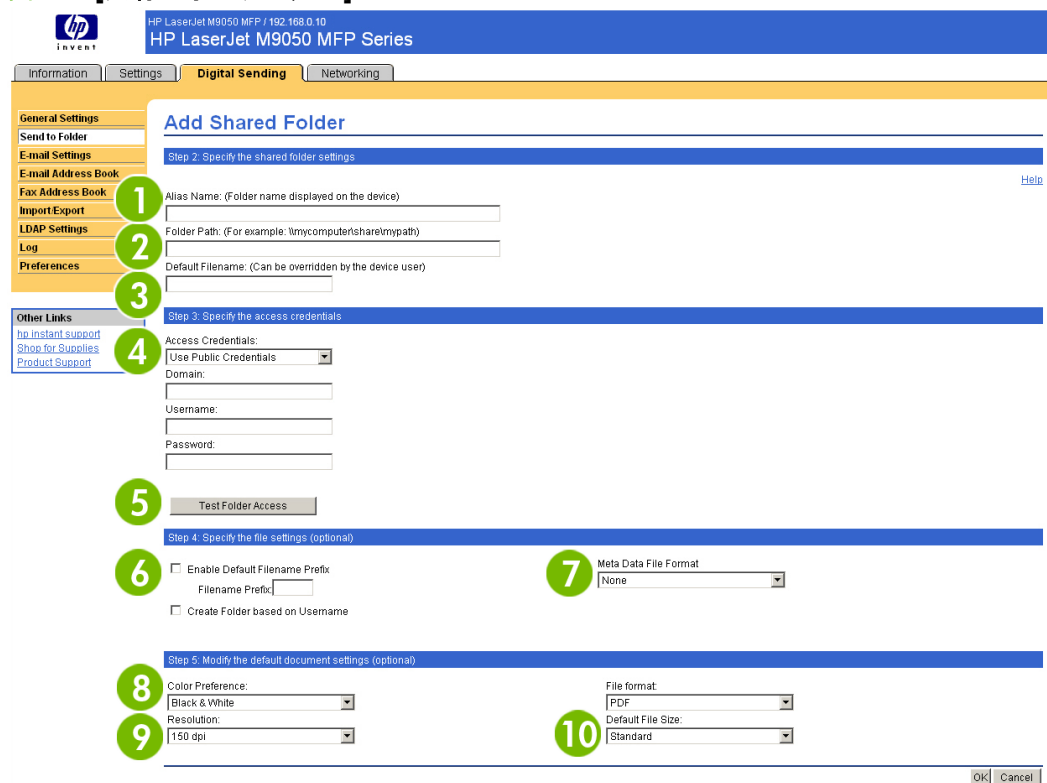



表 4-3 共有フォルダの追加 画面

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	別名	デバイスに表示する任意の名前を入力します。この名前は共有フォルダを表し、MFP のネットワーク フォルダ機能でクイック アクセス フォルダのリストに表示されます。

表 4-3 共有フォルダの追加 画面 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
2	フォルダ パス	フォルダ パスは、コンピュータ名と共有フォルダ名で構成されます。たとえば、 **[\\MyComputerName\MySharedFolder]** のようになります。コンピュータ名の代わりにコンピュータの IP アドレスを入力できます。その場合は、\\10.10.10.10\MySharedFolder のようになります。この手順を実行する前に Windows でフォルダを共有する必要があるということに注意してください。 注記： MyComputerName を検出するには、デスクトップの **[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックしてから、**[コンピュータ名]** をクリックします。**[フル コンピュータ名]** を **[フォルダ パス]** ボックスにコピーします。
3	デフォルト ファイル名	デフォルトのファイル名として、任意の名前を入力します。このファイル名は、デバイス ユーザーがそのたびに上書きできます。そのため、誤ってファイルの内容を上書きしてしまわないように、スキャンする各ファイルには固有のファイル名を付けることをお勧めします。
4	アクセス認証情報	**[公開認証情報を使用]** または **[デバイスのユーザーの認証情報を使用]** のどちらかを選択できます。 ● **[公開認証情報を使用：]** 使用するユーザー名、ドメイン、パスワードは、MFP 上に安全に保存され、ユーザーが共有フォルダにアクセスするたびに使用されます。ユーザーのパスワードを変更した場合は、共有フォルダの設定でパスワードを更新する必要があります。 ● **[デバイスのユーザーの認証情報を使用：]** サポートされている認証方式 (Kerberos 認証) が有効で、ユーザーが [フォルダに送信] にアクセスするためにドメインの認証情報を入力する必要がある場合は (ユーザー認証を参照)、共有フォルダにアクセスするのにこの認証情報が使用されます。サポートされている認証方式が有効でない場合は、ユーザーはユーザー名、ドメイン、およびパスワードを入力するよう求められます。 注記： 使用されているドメインを検出するには、**[マイ コンピュータ]** を右クリックし、**[プロパティ]** を選択し、**[コンピュータ名]** タブを選択します。表示されるドメインは、通常は **[organization.companyname.net]** という形式です。ドメイン名全体ではなく、ドメイン フィールドの第 1 セクション、この場合は **[organization]** だけを使用してください。共有フォルダが格納されているコンピュータがドメインのメンバーでない場合は、代わりにコンピュータ名をドメイン フィールドに入力できます。
5	フォルダ アクセスのテスト	デバイスが共有フォルダにアクセスできるかどうかをテストするには、[フォルダ アクセスのテスト] をクリックします。
6	デフォルト ファイル名のプレフィックスを有効にする	**[固定ファイル名のプレフィックス]** 設定を使用して、各デバイスから送信されるファイルを特定します。各デバイスに固有のプレフィックスを設定できます。これによって、文書のスキャン場所を追跡できるだけでなく、複数のデバイスが文書を同じ送信先フォルダにスキャンしている場合に不要な重複を避けることができます。 固定ファイル名のプレフィックスを有効にするには、以下の手順に従います。 **1.** **[固定ファイル名のプレフィックスを有効にする]** を選択します。 **2.** **[ファイル名プレフィックス]** フィールドに 3 文字のプレフィックスを入力します。 **3.** このページの設定をすべて完了したら、**[OK]** をクリックします。 このプレフィックスは、フォルダに保存される全ファイルのデフォルト ファイル名の先頭に追加されます。

表 4-3 共有フォルダの追加 画面 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
		注記： ユーザーは、固定ファイル名のプレフィックスを上書きできません。
7	メタ データ ファイル形式	メタ データ ファイルには、デバイス名やファイルの属性など、スキャンされた各文書の情報が格納されています。このファイルは、サードパーティ製アプリケーションでスキャンした文書を追跡および配信する際によく使用されます。メタ データ ファイルは、スキャンした文書と同じ送信先フォルダに格納されます。
8	色のユーザー設定	**[モノクロ]** または **[カラー]** を選択できます。カラー スキャンしたファイルは、ファイル サイズが大きくなります。
9	解像度	解像度が高いほど、イメージ品質が高くなります。ただし、解像度が高くなると、ファイル サイズも大きくなります。
10	デフォルト ファイル サイズ	この設定では、さまざまな圧縮レベルを選択できます。**[小]** を選択した場合、ファイル サイズは小さくなりますが、イメージ品質も低下する可能性があります。**[大]** を選択した場合、イメージ品質は上がりますが、ファイル サイズが大きくなります。**[標準]** 設定を選択すると、平均的な圧縮率になります。 注記： ファイル サイズを最小にする場合は、[色のユーザー設定] で **[モノクロ]** を選択し、最低の解像度設定を選択し、[デフォルト ファイル サイズ] で **[小]** を選択します。イメージ品質を高くする場合は、その他の設定を選択します。通常、デフォルト設定の **[PDF]**、**[カラー]**、**[150 dpi]**、**[標準]** ファイル サイズを使用すると、標準的なファイル サイズと品質を得られます。

2. 共有フォルダを追加および設定して [OK] をクリックすると、このページに戻ります。新しい共有フォルダが [事前定義フォルダ] リストに表示されます。各フォルダの別名がリストに表示されます。

事前定義フォルダの編集または表示

事前定義フォルダを編集または表示するには、以下の手順に従います。

1. [事前定義フォルダ] リストでフォルダ名をクリックして選択します。
2. [編集] をクリックすると、事前定義フォルダの設定を表示または変更するための別の Web ページが表示されます。設定を変更する場合は、[OK] ボタンをクリックしてこのページに戻り、変更を行わない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

事前定義フォルダの削除

デバイスから事前定義フォルダを削除するには、以下の手順に従います。

1. [事前定義フォルダ] リストでフォルダ名をクリックして選択します。
2. [削除] をクリックして、[OK] をクリックして了承します。選択した送信先フォルダがデバイスから削除されます。
3. 他のフォルダを削除するには、上記の手順を繰り返すか、下記の [すべて削除] ボタンを使用します。

すべてのフォルダの削除

デバイスからすべてのフォルダを削除するには、以下の手順に従います。

1. [すべて削除] をクリックします。
2. [OK] をクリックして了承します。すべてのフォルダが削除されます。

事前定義フォルダのテスト

デバイスが事前定義フォルダにアクセスできるかどうかをテストするには、以下の手順に従います。

1. [事前定義フォルダ] リストでフォルダを選択します。
2. [フォルダ アクセスのテスト] をクリックします。フォルダのアクセスにデバイスのユーザーの認証情報を使用するように設定している場合、テストを完了するためには、ユーザーの認証情報が求められたときにそれを入力する必要があります。

   テストが完了すると、テスト結果を示す灰色のメッセージ ボックスがページ上部に表示されます。

電子メールの設定

製品は、電子メール メッセージを警報先に送信するのに SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) ゲートウェイ サーバを必要とします。SMTP ゲートウェイが応答していない場合、または設定されていない場合は、以下のメッセージが画面に表示されます。

0.0.0.0 is not responding or is not a valid SMTP Gateway Server.(0.0.0.0 が応答していないか、有効な SMTP ゲートウェイ サーバではありません。)

[電子メールの設定] 画面は、SMTP 設定を行ったり、電子メールの添付ファイルの最大サイズを設定したり、製品のデフォルトの電子メール アドレスを設定するのに使用します。また、製品が送信するすべての電子メール メッセージのデフォルトの件名を設定することもできます。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 4-7 **[電子メールの設定]** 画面

表 4-4 **電子メールの設定**

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ヘルプ	クリックすると、**デジタル送信** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。
3	電子メール送信	電子メール メッセージを製品から直接 SMTP ゲートウェイ サーバに送信します。
4	デバイスの SMTP ゲートウェイ	デバイスの電子メール要求を管理する SMTP ゲートウェイ サーバの TCP/IP アドレスまたはホスト名を入力します。SMTP ゲートウェイの TCP/IP アドレスまたはホスト名がわからない場合は、**[ゲートウェイの検出]** ボタンをクリックして、適切な SMTP ゲートウェイ サーバをネットワークで検索します。 注記： 一部のデバイスは、TCP/IP アドレスだけを認識します。そのような場合、ホスト名は相当する TCP/IP アドレスに変換されます。
5	最大添付ファイル サイズ	SMTP ゲートウェイ サーバが送信可能な電子メール添付ファイルの最大サイズを選択します。製品が指定されている最大サイズを超える電子メール添付フ

表 4-4 電子メールの設定 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
		ァイルを送信する必要がある場合、添付ファイルは小さいファイルに分割され、複数の電子メール メッセージで送信されます。
6	SMTP 認証の有効化	この設定は、送信電子メールの SMTP 認証を要求するのに使用します。 SMTP 認証は、ユーザー名とパスワードが要求されたときにそれらを SMTP サーバに提供するのに使用します。ほとんどのインターネット サービス プロバイダ (ISP) がこれらの認証情報を要求します。
7	デバイスのユーザーの認証情報を使用	この設定は、SMTP の [認証] が有効になっていて、各デバイス ユーザーが SMTP サーバのアカウントを持っている場合のみ使用できます。ほとんどの場合、**[公開認証情報を使用]** の方が適しています。
8	公開認証情報を使用	この設定は、すべてのユーザーが使用する、デバイスの SMTP 認証用の 1 つの名前とパスワードを設定するのに使用します。
9	ゲートウェイの検出	SMTP ゲートウェイの TCP/IP アドレスまたはホスト名がわからない場合は、このボタンをクリックして、適切な SMTP ゲートウェイ サーバをネットワークで検索します。 注記： 電子メール サービスに ISP を使用している場合、この機能は正しく動作しないことがあります。ISP に、SMTP ゲートウェイの名前またはアドレス、および電子メールにアクセスするためのユーザー名とパスワードをお問い合わせください。
10	テスト	指定した SMTP ゲートウェイ サーバが有効であり動作していることを確認するには、このボタンをクリックします。
11	電子メール アドレス	デフォルトの差出人の電子メール アドレスを入力します。
12	表示名	製品から送信される電子メール メッセージの [差出人] フィールドに表示する名前を入力します。このフィールドに、「ここに電子メール アドレスを入力してください。」のような説明を指定することもできます。 注記： 名前を指定しないと、**電子メール アドレス** フィールドに入力した電子メール アドレスが送信電子メール メッセージの [差出人] フィールドに表示されます。
13	デバイス ユーザーによるデフォルトの [差出人:] アドレスの変更を許可しない	一般ユーザーが、管理者が設定した電子メール アドレスを変更できないようにするには、このチェック ボックスをオンにします。
14	デフォルトの件名	必要に応じて、製品が送信するすべての電子メール メッセージに表示する件名を入力します。このフィールドに、「メッセージの件名を入力してください。」のような説明を指定することもできます。
15	詳細設定	製品が送信する電子メール メッセージのメッセージ テキストや添付ファイルの設定を行うための別の画面を表示するには、このボタンをクリックします。詳細については、「72 ページの 「電子メールの詳細設定」」を参照してください。

電子メールの詳細設定

以下の図と表に、**[電子メールの詳細設定]** 画面の使用方法を示します。

図 4-8 [電子メールの詳細設定] 画面

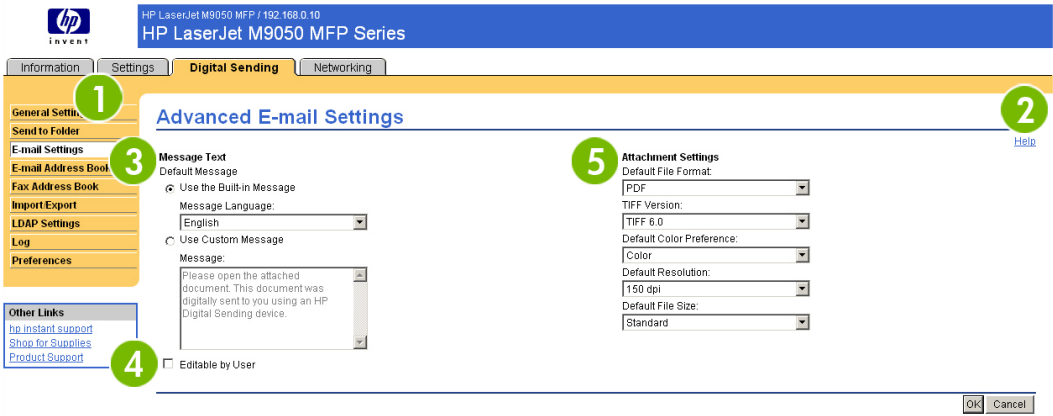



表 4-5 電子メールの詳細設定

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ヘルプ	クリックすると、**[デジタル送信]** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。
3	メッセージ テキスト	製品から送信されるすべての電子メール メッセージの本文に表示されるメッセージ テキストの種類 (組み込みメッセージ/カスタム メッセージ) を選択します。メッセージ テキストの言語を選択します。使用可能な言語は、**[設定]** タブの [言語] 画面で設定されているのと同じ言語です。
4	ユーザーにより編集可能	ユーザーが、電子メール メッセージにテキストを追加できるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。
5	添付ファイル設定	製品から送信される電子メール メッセージの添付ファイルのデフォルト設定を選択します。 注記： 電子メールの添付ファイルのサイズを最小にする場合は、**[モノクロ]**、最低の解像度、[デフォルト ファイル サイズ] の **[小]** を選択します。イメージ品質を高くする場合は、その他の設定を選択します。通常、デフォルト設定の **[PDF]**、**[カラー]**、**[150 dpi]**、**[標準]** ファイル サイズを使用すると、標準的なファイル サイズと品質を得られます。

電子メール アドレス帳

電子メール アドレス帳は、デバイスに保存されている、電子メール アドレス リストのことです。このアドレス帳には、使用頻度の高い電子メール アドレスを保存できるので、デバイスのフロント パネルから文書を送信するときに、正しい電子メール アドレスをすばやく選択できます。[電子メール アドレス帳] ページを使用すると、デバイスに対する一度に 1 つの電子メール アドレスの追加と、すでにデバイスに保存された電子メール アドレスの編集または削除を実行できます。

また、一度に 1 つずつ追加する代わりに、デバイスの [インポート/エクスポート] 機能を使用して、使用頻度の高い電子メール アドレスからなる大きなリストを一度にロードすることもできます。

複数のデバイスに対して電子メール アドレスを追加する場合は、それらを 1 つのデバイスに追加し、リストに対して編集を行い、次に [インポート/エクスポート] 機能を使用してそれらのアドレスを他のデバイスに転送するのが最適な方法です。

以下の図と手順に、この画面の使用方法を示します。

図 4-9 [電子メール アドレス帳] 画面

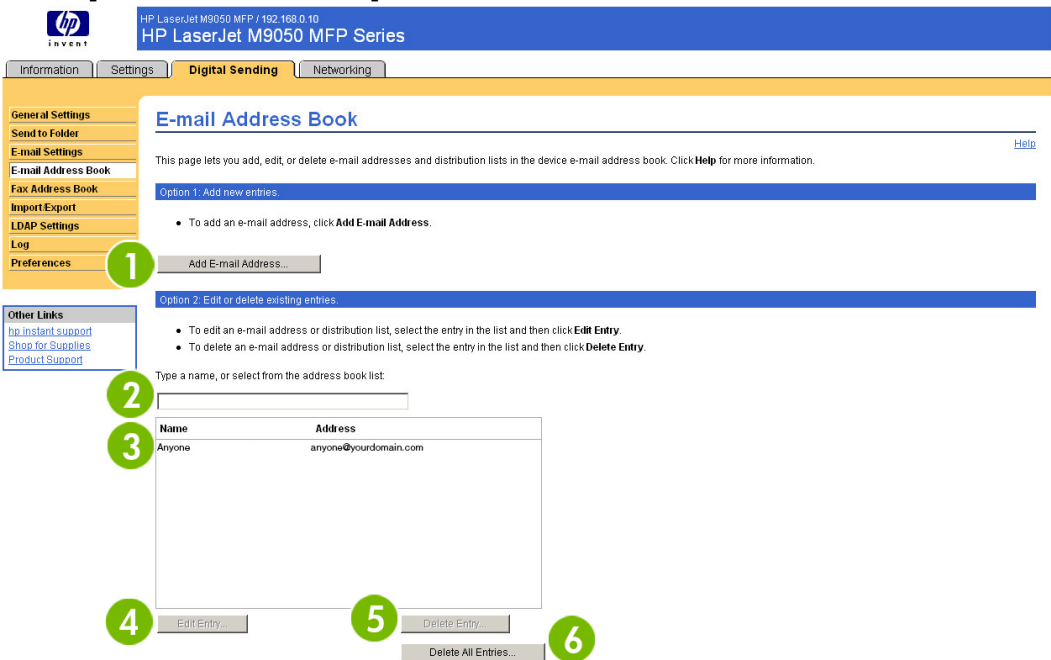



表 4-6 電子メール アドレス帳 画面

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	新規エントリを追加します。	電子メール アドレス帳に電子メール アドレスを追加するには、**[電子メール アドレスを追加]** ボタンをクリックします。
2	電子メール アドレス、またはアドレス帳の名前を入力	編集や削除する保存された電子メール アドレス、または電子メール アドレス帳の名前を入力します。
3	電子メール アドレス、またはアドレス帳の名前を選択	編集や削除する保存された電子メール アドレス、または電子メール アドレス帳の名前を選択します。

表 4-6 電子メール アドレス帳 画面 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
4	エントリの編集	デバイスの電子メール アドレスや電子メール アドレス帳を編集するには、**[エントリの編集]** ボタンをクリックします。
5	エントリを削除	デバイスの電子メール アドレスや電子メール アドレス帳を削除するには、**[エントリを削除]** ボタンをクリックします。
6	すべてのエントリを削除	デバイスに保存されている電子メール アドレスや電子メール アドレス帳をすべて削除するには、**[すべてのエントリを削除]** ボタンをクリックします。

電子メール アドレス帳のタスク

[電子メール アドレスを追加...] をクリックすると、電子メール アドレスを追加できます。自動的に [電子メール アドレスの追加] ページに移動します。ここには、タスクを完了するための手順が掲載されています。

電子メール アドレスの追加

新しい電子メール アドレスを追加するには、次の手順に従います。

1. [電子メール アドレスを追加...] をクリックします。[電子メール アドレスの追加] ページが表示されます。
2. [名前] フィールドに、ユーザーの名前を入力します。この名前は、電子メール アドレスを指定してユーザーを検索したときに、デバイスのコントロール パネルのリスト内に表示されるものです。最大の長さは 245 文字です。使用している言語によっては、これより短くなります。
3. [電子メール アドレス] フィールドに電子メール アドレスを入力します。長さは 255 文字未満にする必要があります。

   注記： デバイスで電子メール アドレスの確認機能が有効になっている場合は、その電子メール アドレスの中に「@」記号が含まれている必要があります。

4. [適用] をクリックして新しい電子メール アドレスをデバイスに保存します。

電子メール アドレスの編集

既存のエントリを編集するには、次の手順に従います。

1. 編集する電子メール アドレスを選択します。[検索] フィールドに、特定の電子メール アドレスを入力することもできます。
2. [エントリの編集...] をクリックします。[電子メール アドレスの編集] ページが表示されます。
3. [名前] フィールドと [電子メール アドレス] フィールドで、必要な変更を加えます。
4. [適用] をクリックして編集結果を保存します。

電子メール アドレスの削除

既存エントリを削除するには、次の手順に従います。

1. 削除する電子メール アドレスを選択します。[検索] フィールドに、特定の電子メール アドレスを入力することもできます。
2. [エントリを削除...] をクリックします。[電子メール アドレスを削除] ページが表示されます。注記： デバイスからすべての電子メール アドレスを削除するには、[すべてのエントリを削除] をクリックします。最初に電子メール アドレスのバックアップを作成するには、デバイスの [インポート/エクスポート] 機能を使用してこの作業を実行できます。
3. 表示されるページで、選択した電子メール アドレスを削除するかを確認するメッセージが表示されます。一度削除した電子メール アドレス エントリを回復する方法はありません。[OK] をクリックし、選択内容を確認します。電子メール アドレスが削除されます。

ファックス アドレス帳

ファックス アドレス帳は、デバイスに保存されている、ファックス番号リストのことです。このアドレス帳には、使用頻度の高いファックス番号を保存できるので、MFP デバイスのフロント パネルから文書をファックス送信するときに、正しい送信先をすばやく選択できます。[ファックス アドレス帳] ページを使用すると、デバイスに対する一度に 1 つのファックス番号の追加と、すでにデバイスに保存されたファックス番号の編集または削除を実行できます。

また、一度に 1 つずつ追加する代わりに、デバイスの [インポート/エクスポート] 機能を使用して、使用頻度の高いファックス番号からなる大きなリストを一度にロードすることもできます。

複数のデバイスに対してファックス番号を追加する場合は、それらを 1 つのデバイスに追加し、リストに対して編集を行い、次に [インポート/エクスポート] 機能を使用してそれらのファックス番号を他のデバイスに転送するのが最善です。

以下の図と手順に、この画面の使用方法を示します。

図 4-10 [ファックス アドレス帳] 画面

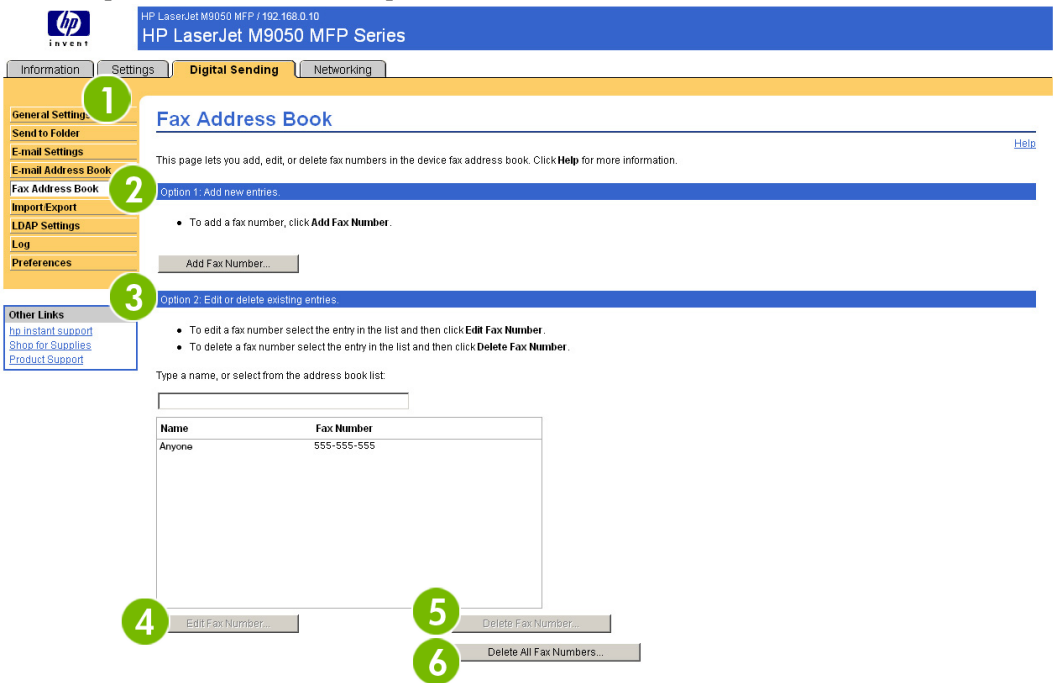



表 4-7 ファックス アドレス帳

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」を参照してください。
2	新規エントリを追加します。	この機能を使用すると、新規ファックス エントリをディレクトリに追加できます。
3	既存のエントリを編集または削除します。	この機能を使用すると、ディレクトリのファックス エントリを編集または削除できます。
4	ファックス番号の編集	このボタンをクリックすると、ファックス番号を編集できます。

表 4-7 **ファックス アドレス帳 (続き)**

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
5	ファックス番号の削除	このボタンをクリックすると、ファックス番号が削除されます。
6	すべてのファックス番号を削除	このボタンをクリックすると、すべてのファックス番号が削除されます。

ファックス アドレス帳のタスク

[ファックス番号を追加...] をクリックすると、ファックス番号を追加できます。自動的に [ファックス番号を追加] ページに移動します。そこには、タスクを完了するための手順が掲載されています。

ファックス番号の追加

新しいファックス番号を追加するには、次の手順に従います。

1. [ファックス番号を追加...] をクリックします。[ファックス番号を追加] ページが表示されます。
2. [名前] フィールドに、ユーザーの名前を入力します。この名前は、ファックス番号を指定してユーザーを検索したときに、デバイスのコントロール パネルのリスト内に表示されるものです。最大の長さは 245 文字です。使用している言語によっては、これより短くなります。
3. [ファックス番号] フィールドに、ファックス番号を入力します。ファックス番号の形式は、間にスペースありでもなしでも設定できます。長さは 50 文字未満にする必要があります。番号には、 , + - ( ) [ ] * の記号を含めることができます。

   カンマを使用すると、ダイヤル中に 2 秒間待機時間が追加されるので、ダイヤル プレフィックスを使用するときに便利です。

   角かっこ ([ ]) を使用すると、ファックス レポートやファックス ログで PIN 番号を非表示にでき、セキュリティを保護できます。角かっこの中の数字は、これらのレポートに一切表示されません。
4. [適用] をクリックして新しいファックス番号をデバイスに保存します。

デバイスに保存された任意のファックス番号を編集または削除することもできます。

ファックス番号の編集

既存のエントリを編集するには、次の手順に従います。

1. 編集するファックス番号を [ファックス アドレス帳] ページから選択します。[検索] フィールドに、特定のファックス番号を入力することもできます。
2. [ファックス番号の編集...] をクリックします。[ファックス番号の編集] ページが表示されます。
3. [名前] フィールドと [ファックス番号] フィールドで、必要な変更を加えます。
4. [適用] をクリックして編集結果を保存します。

ファックス番号の削除

すべてのファックス番号を削除するには、**[すべてのファックス番号を削除]** ボタンをクリックします。

既存エントリを個別に削除するには、次の手順に従います。

1. 削除するファックス番号を [ファックス アドレス帳] ページから選択します。[検索] フィールドに、特定のファックス番号を入力することもできます。

2. [ファックス番号を削除...] をクリックします。[ファックス番号の削除] ページが表示されます。
注記： デバイスからすべてのファックス番号を削除するには、[すべてのファックス番号を削除...] をクリックします。最初にファックス番号のバックアップを作成するには、デバイスの [インポート/エクスポート] 機能を使用してこの作業を実行できます。

3. 表示されるページで、選択したファックス番号を削除するか確認するメッセージが表示されます。一度削除したファックス番号エントリを回復する方法はありません。[OK] をクリックし、選択内容を確認します。ファックス番号が削除されます。

インポート/エクスポート

アドレス帳とユーザー情報をデバイスにインポートまたはデバイスからエクスポートするには、このページを使用します。

データをデバイスにインポートする場合は、電子メール アドレス、ファックス番号、またはユーザー レコードを追加し、それらがデバイス上でアクセスできるようになります。この結果、初期のリスト作成や、組織内での変化に合わせて HP のデバイスを最新の状態に保つことが容易になります。

レコードをエクスポートする場合は、デバイス上の電子メール アドレス、ファックス番号、またはユーザー レコードを、コンピュータ上のファイルに保存することになります。次に、このファイルをデータのバックアップとして使用するか、他の HP デバイスにレコードする目的で使用することができます。エクスポートの手順については、82 ページの 「アドレス帳のエクスポート」 を参照してください。

以下の図と手順に、この画面の使用方法を示します。

図 4-11 [インポート/エクスポート] 画面

表 4-8 インポート/エクスポート 画面

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	アドレス帳ファイル名 (インポート元) :	デバイスにインポートする電子メールまたはファックス アドレス帳の名前を入力し、**[インポート]** ボタンをクリックして、指定したアドレス帳をインポートします。
2	アドレス帳のエクスポート	アドレス帳の種類の隣にあるボックスをオンにしてエクスポートするアドレス帳を選択します。
3	アドレス帳ファイル名 (エクスポート先)	作成するエクスポート ファイルの名前とパスを入力し、**[エクスポート]** をクリックして、ファイルを保存します。
4	アドレス帳をクリア	クリアするアドレス帳の種類を選択し、**[選択したアドレス帳をクリア]** をクリックします。

アドレス帳のインポート

アドレス帳をインポートするには、最初にカンマ区切り (Comma-separated Value: CSV) 形式のファイルを作成します。CSV 形式は、データベース プログラムまたはデバイスの間でデータを転送する目的で一般的に使用されるデータ形式です。Microsoft Excel などのスプレッドシート プログラム、または Windows に付属しているメモ帳などのテキスト エディタ プログラムを使用してこのファイルを作成することもできます。ファイルを作成した後で、そのファイルを .CSV ファイル形式で保存またはエクスポートする必要があります。Microsoft Outlook または他の電子メール クライアントから連絡先をエクスポートし、それを .CSV ファイルに保存する方法で、データ ファイルを作成することもできます。

アドレス帳のインポート

アドレス帳またはユーザー データをインポートするには、次の手順に従います。

1. データで必要とされる列に対応した見出し行を持つデータ ファイルを作成します。以下の列が使用できます。

   - [name] (または [first name」 と [last name])
   - address
   - dlname
   - faxnumber
   - speeddial
   - code
   - pin

   注記： [address] フィールドは、[E-mail] または [E-mail Address] とも呼ばれます。[faxnumber] フィールドは、[Business Fax] または [Home Fax] とも呼ばれます

   ヘッダー行とは単純に、スプレッドシートまたはファイルの最初の行のことです。

2. ヘッダー行の後に、個別のアドレス帳レコードまたはユーザー レコードを保持している行を追加します。各タイプのレコードでどの列が必要なのか判断するには、以下の「必要なデータとレコードの制限」セクションを参照してください。

   列は空白にすることもできます。テキスト形式のインポート ファイルを作成する場合は、空白のフィールド 1 つにつき、カンマを 1 つ挿入するだけです。

   フィールドの中にあるデータの一部としてカンマが使用されている場合は、そのフィールドの中にあるデータを二重引用符で囲む必要があります。以下に例を示します。

   "Smith, Joe"

   Excel を使用してインポート ファイルを作成する場合は、このような引用符を手動で入力する必要はありません。ファイルを .CSV ファイルに変換する際に、Excel がこれらの引用符を自動的に挿入します。

3. インポート ファイルを保存します。

   Excel を使用してインポート ファイルを作成する場合は、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択し、[ファイルの種類] ドロップダウン メニューから [CSV (カンマ区切り) (*.csv)] を選択します。

テキスト ファイルを作成する場合は、[ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択し、次にファイル拡張子として「.txt」の代わりに「.csv」を指定します。

4. ソース ファイル (インポート ファイル) をデバイスにインポートするには、[インポート/エクスポート] ページで [アドレス帳のファイル名] フィールドの横の [参照...] をクリックし、コンピュータ上のソース ファイルを参照します。

5. [インポート] をクリックし、デバイスにデータ ファイルをインポートします。ネットワークの速度にもよりますが、インポート プロセスでは、1,000 レコードごとに約 1 分かかります。

   インポート プロセスが完了した時点で、インポートに成功したレコードの数と、インポート エラーが発生したかどうかを示すメッセージが表示されます。

必要なデータとレコードの制限

各タイプのレコードで必要なデータは、以下のとおりです。

レコード タイプ	必要なデータ	最大フィールド長	最大レコード数
電子メール アドレス	[name] (または [first name」と [last name])	245 文字 [2]	2,000[3]
	address[1]	255 文字	
ユーザー レコード	name	245 文字 [2]	2,000
	pin	4 ~ 8 桁	
	address[1]	255 文字	
電子メール配信リスト	name	245 文字 [2]	2,000[3]
	address[1]	255 文字	
	dlname	245 文字 [2]	
ファックス番号	name	245 文字 [2]	2,000
	faxnumber[1]	50 文字	
ファックス短縮ダイアル	faxnumber[1]	50 文字	100 個の短縮ダイアル。それぞれが最大 100 個のエントリを持ちます。
	speeddial[4]	31 文字	
	code[4]	2 桁	

[1] [address] フィールドは、[E-mail] または [E-mail Address] とも呼ばれます。[faxnumber] フィールドは、[Business Fax] または [Home Fax] とも呼ばれます

[2] 最大の長さは、使用している言語によってはこれより短くなります。

[3] 電子メール アドレスと配信リストの合計数は、2,000 エントリ以下である必要があります。

[4] [speeddial] フィールドには、短縮ダイアルの名前、たとえば 「Johnson Janitorial」が入ります。[code] フィールドには、短縮ダイアルのコード (0 ~ 99 の数値のいずれか)、たとえば「08」を記録します。1 桁または 2 桁の数値が受け入れられます。たとえば、「06」と「6」のどちらも使用できます。

Microsoft Outlook を使用したインポート ファイルの作成

Microsoft Outlook の中に連絡先を保存した場合は、それらをエクスポートして .CSV ファイル形式で保存し、そのファイルを使用してデータに連絡先をインポートすることもできます。Microsoft Outlook を使用して .CSV ファイルを作成するには、以下の手順に従います。

1. Outlook の [ファイル] メニューから、[インポートとエクスポート...] を選択します。
2. インポートとエクスポート ウィザードで、[ファイルへエクスポート] をクリックし、[次へ] をクリックします。
3. [テキスト ファイル (DOS、カンマ区切り)] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. [連絡先] フォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
5. .CSV 拡張子を指定し、ファイルの名前を入力します。[参照] をクリックし、ファイルの保存先となるコンピュータ上の場所を選択します。[次へ] をクリックします。
6. [完了] をクリックしてウィザードを終了し、ファイルをエクスポートします。
7. デバイスにその .CSV ファイルをインポートするには、80 ページの 「アドレス帳のインポート」の説明の手順 4 と 5 に従います。

アドレス帳のエクスポート

デバイスに保存されたアドレス帳またはユーザー情報をエクスポートすることもできます。このデータは、上記で説明したのと同じ形式であり、1 行のヘッダ行の後に、個別のユーザー レコードまたは各アドレス帳レコードを保持している行が続きます。データをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. 「アドレス帳のインポート」の手順 1 で示したチェック ボックスの 1 つまたは複数をオンにします。
2. 手順 2 では、エクスポート ファイルの名前を入力します。
3. 表示されたダイアログ ボックスの中で、[保存] をクリックし、次にファイルの保存場所を選択します。
4. エクスポート プロセスが失敗した場合は、エラー メッセージが表示されます。その場合は、数分待って、もう一度エクスポートを試みてください。

Microsoft Excel などのスプレッドシート プログラム、または Windows に付属しているメモ帳などのテキスト エディタ プログラムを使用して、エクスポート ファイルを開くことができます。

アドレス帳のクリア

デフォルトでは、[選択したアドレス帳をクリア] ボタンをクリックすると、デバイスからアドレス帳のすべてのデータ (電子メール、ファックス、および承認済みユーザーのデータ) が削除されます。個別のアドレス帳をクリアするよう指定することもできますが、電子メール アドレス リストや電子メール配信リストを個別にクリアすることはできません。

デバイスを社内の別の部門に移動する前、または他のデバイスからアドレス帳をインポートする前に、すべてのアドレス帳をクリアしたい場合が考えられます。

1 つまたは複数のアドレス帳をクリアするには、次の手順に従います。

1. [オプション 3: アドレス帳をクリア] の下に表示されている チェック ボックスの 1 つまたは複数を選択します。
2. 選択したアドレス帳の中にあるデータをクリアするには、[選択したアドレス帳をクリア] をクリックします。選択されているアドレス帳が削除されようとしていることを示す警告ダイアログボックスが表示されます。
3. [OK] をクリックし、このアクションを確認します。クリア後、データを回復することはできません。
4. [OK] をクリックした後、アドレス帳はクリアされ、元のページが表示されます。クリア済みのアドレス帳からなるリストが表示されます。

アドレス設定

注記： LDAP プロトコルは、通常、企業の電子メール環境でのみ使用されます。外部のインターネット サービス プロバイダを使用して電子メール サービスを利用している場合は、**[電子メール アドレス帳]** 機能を使用することをお勧めします。

製品がスキャンした文書を送信できるようにするには、送信先アドレスを 1 つまたは複数指定する必要があります。製品のアドレス設定機能により、ネットワークの LDAP サーバにアクセスして、この手順を単純化できます。

[アドレス設定] 画面は、製品が複製された LDAP アドレス帳からアドレスを取得するのではなく、LDAP データベースから直接アドレスを取得できるようにする機能を設定するのに使用します。LDAP アドレス帳を直接使用することで、最新のアドレスが使用されることを保証できます。LDAP サーバの設定が無効であったり、LDAP サーバを自動的に検出できない場合には、画面にメッセージが表示されます。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 4-12 [アドレス設定] 画面

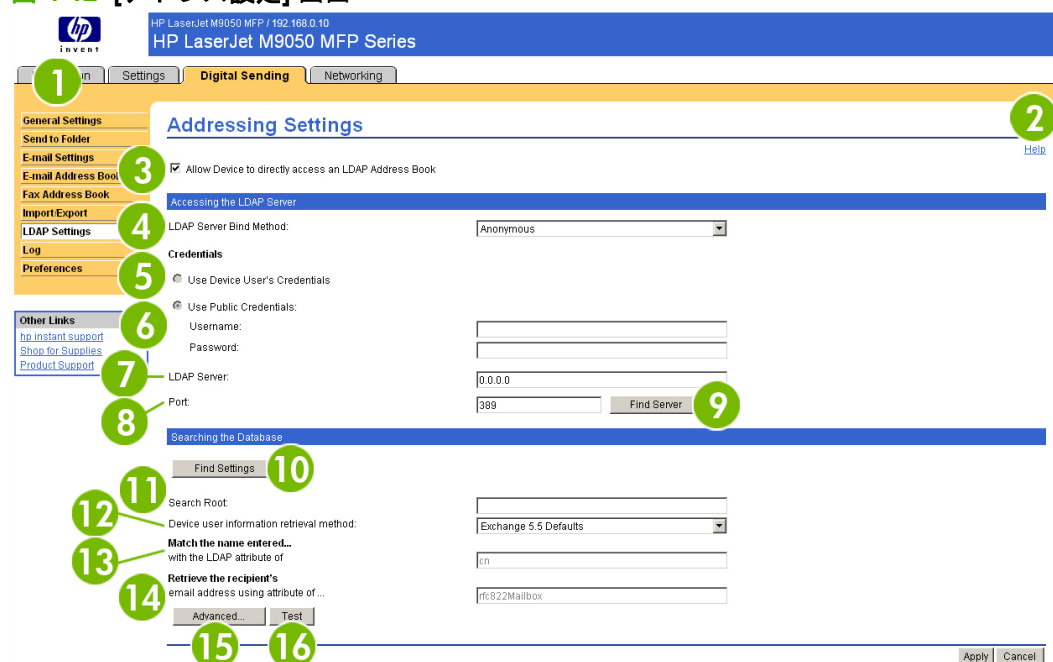



表 4-9 アドレス設定

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ヘルプ	クリックすると、**[デジタル送信]** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。
3	デバイスから LDAP アドレス帳への直接アクセスを許可する	デバイスが LDAP アドレス帳に直接アクセスできるようにするには、このチェック ボックスをオンにします。

表 4-9 アドレス設定 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能	
4	LDAP サーバのバインド方法	**[匿名]**	LDAP サーバが、LDAP データベースにアクセスするのにユーザーの認証情報を要求しない場合は、このオプションを選択して LDAP サーバに接続します。
		[シンプル]	LDAP サーバが、LDAP データベースを使用するのにユーザーの認証情報を要求する場合は、このオプションを選択して LDAP サーバに接続します。 このオプションを選択した場合は、ユーザー名、パスワード、およびドメインを入力する必要があります。パスワードは、暗号化されていない状態でネットワーク経由で送信されることに注意してください。
		[シンプル (SSL 経由)]	LDAP サーバが、LDAP データベースを使用するのにユーザーの認証情報を要求する場合は、このオプションを選択して LDAP サーバに接続します。このオプションは Kerberos v2 をサポートしています。 このオプションを選択した場合は、ユーザー名、パスワード、およびドメインを入力する必要があります。 注記： このオプションは、一部の製品では使用できません。
		[Kerberos]	選択された LDAP (Active Directory) サーバーでは、ユーザー認証情報が必要です。Kerberos チケットは、Kerberos (Active Directory) サーバから取得し、LDAP サーバを認証する目的で使用するものです。パスワードは暗号化されてネットワーク経由で送信され、第三者によって読み取られることはありません。 バインド方法として Kerberos を使用するには、最初に Kerberos 設定を行う必要があります。[ユーザーの認証情報] のいずれかを使用する場合は、電子メールに関して Kerberos 認証が必須であることに注意してください。
5	デバイスのユーザーの認証情報を使用	この設定は、SMTP の [認証] が有効になっていて、各デバイス ユーザーが SMTP サーバのアカウントを持っている場合にのみ使用できます。ほとんどの場合、**[公開認証情報を使用]** の方が適しています。	
6	公開認証情報を使用	この設定は、すべてのユーザーが使用する、デバイスの SMTP 認証用の 1 つの名前とパスワードを設定するのに使用します。 これらの公開認証情報は、LDAP に直接接続するのに使用します。公開認証情報を入力した場合、これらの認証情報は、ユーザーがデバイスを使用したときにデバイスが LDAP ディレクトリにアクセスするのに使用されます。	
7	LDAP サーバ	データベースに一元管理されたアドレス帳が含まれている LDAP サーバのホスト名または TCP/IP アドレスを入力します。 注記： 一部の製品は、TCP/IP アドレスだけを認識します。そのような場合、ホスト名は相当する TCP/IP アドレスに変換されます。	

表 4-9 アドレス設定 (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能	
8	ポート	サーバが LDAP 要求を処理している TCP/IP ポート番号を入力します。通常は、ポート 3268 です。	
9	サーバを検出	使用可能な LDAP サーバを検索するには、このボタンをクリックします。	
10	設定の検出	LDAP データベースを検索するときに、指定したサーバに最適な設定を製品に判断させるには、このボタンをクリックします。	
11	検索ルート	アドレスの検索を開始する LDAP ディレクトリ構造内のエントリの識別名 (DN) を入力します。識別名は、カンマで区切られた「<属性>=<値>」で構成されます。以下に例を示します。 ou=departmentname,o=companyname ou=marketing,o=Hewlett Packard,c=US o=hp.com ou=engineering,cn=users,dc=hp,dc=com 注記： 一部の LDAP サーバでは、検索ルートを空のままにしておくこともできます (この場合、ルート ノードを指定したとみなされます)。	
12	デバイス ユーザー情報の取得方法	**[Exchange 5.5 のデフォルト]**	LDAP を実行している Microsoft Exchange 5.5 サーバに接続する場合は、このオプションを選択します。LDAP 属性値が自動的に設定されます。
		[アクティブ ディレクトリのデフォルト]	LDAP を実行している Microsoft Exchange Server 2000 サーバに接続する場合は、このオプションを選択します。LDAP 属性値が自動的に設定されます。
		[カスタム]	LDAP 属性値を手動で設定する必要がある場合は、このオプションを選択します。
13	LDAP 属性と共に	アドレス帳内の人物を特定する LDAP データベース内の属性を入力します。この属性の値は、ユーザーがある人物の電子メール アドレスを取得するために入力する名前と比較されます。以下に使用可能な LDAP 属性をいくつか示します。 ● uid: ユーザー ID ● cn: 共通名 ● sn: 姓 ● givenName: 名	
14	次の属性を使用するデバイス ユーザーの電子メール アドレス	ユーザーの電子メール アドレスが含まれている LDAP 属性を入力します。以下に使用可能な 2 つの LDAP 属性を示します。 ● rfc822Mailbox ● mail	
15	詳細設定	LDAP サーバの高度な機能を設定するための画面を表示するには、このボタンをクリックします。詳細については、「87 ページの 「アドレスの詳細設定」」を参照してください。	
16	テスト	指定した設定をテストするには、このボタンをクリックします。	

アドレスの詳細設定

以下の図と表に、**[アドレスの詳細設定]** 画面の使用方法を示します。

図 4-13 [アドレスの詳細設定] 画面

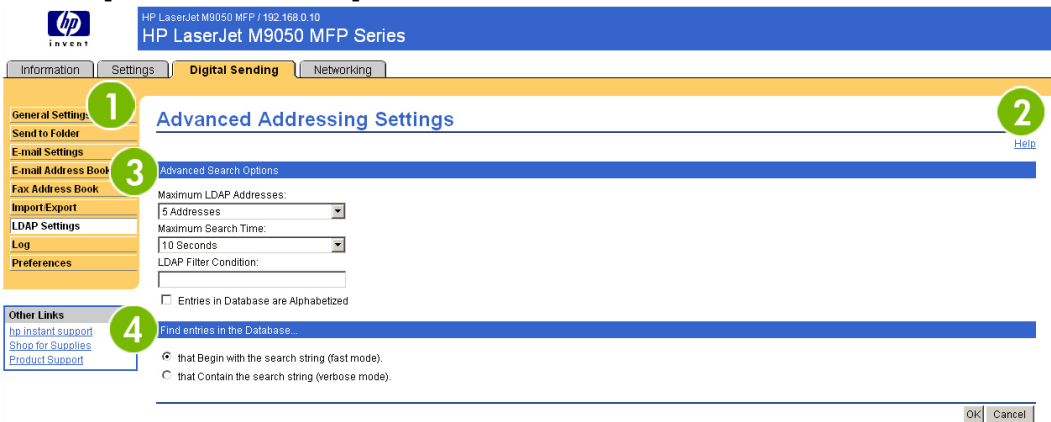



表 4-10 アドレスの詳細設定

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ヘルプ	クリックすると、**[デジタル送信]** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。
3	高度な検索オプション	LDAP サーバの高度な検索設定を選択します。以下の設定が可能です。 ● **LDAP アドレスの最大数 -** 1 つの検索で返される、一致する電子メール アドレスの数を設定します。小さい値を指定するほど、検索時間は短くなります。 ● **検索時間の上限 -** デバイスが LDAP サーバからの応答を待機する時間を設定します。LDAP サーバの使用率が高い環境またはネットワークが低速な環境の場合は、このタイムアウト値を増やしてください。 ● **LDAP フィルタ条件 -** 電子メール アドレスをフィルタリングするオプションの LDAP フィルタを設定します。
4	データベース内のエントリを検出	LDAP 検索クエリーに、名前の一部で開始するエントリ、またはエントリ名の任意の部分に名前の一部が含まれているすべてのエントリを含めるかどうかを選択します。

ログ

[ログ] 画面は、発生したエラーを含む、デジタル送信ジョブの情報を表示するのに使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

注記： HP DSS がインストール済みの場合は、デジタル送信の使用状況ログは、HP EWS ではなく HP DSS に記録されます。ログを表示するには、HP デジタル送信ソフトウェアの設定ユーティリティ を開いて、**[ログ]** タブをクリックします。HP EWS には、コントロール パネルまたは HP EWS の画面で設定したアクティビティに関係するエントリだけが表示されます。

図 4-14 **[ログ]** 画面

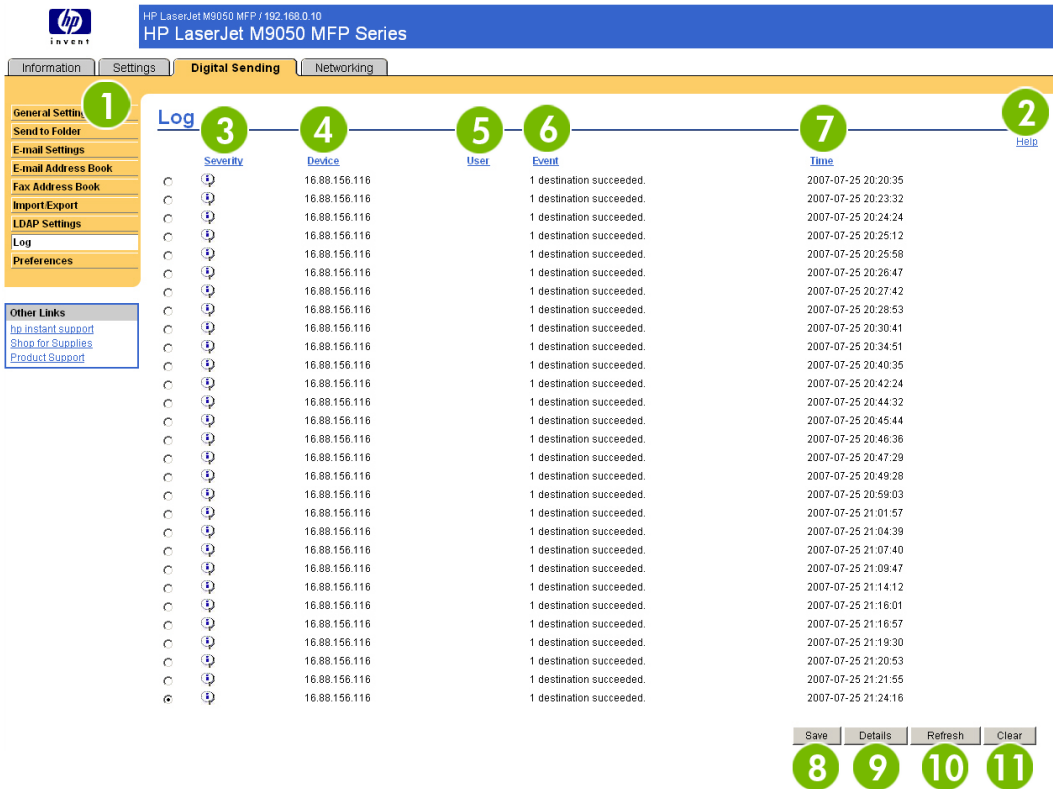



表 4-11 ログ

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ヘルプ	クリックすると、**[デジタル送信]** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。
3	重大度	各ログ エントリのエラーの重要度が表示されます。
4	デバイス	デバイスの TCP/IP アドレスが表示されます。
5	ユーザー	イベントを開始したユーザーが表示されます。
6	イベント	イベントが正常に完了したか、エラーが発生したかが示されます。
7	時刻	各ログ エントリの時間が表示されます。
8	保存	ログ情報をファイルに保存するには、このボタンをクリックします。

表 4-11 ログ (続き)

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
9	詳細	ログ エントリの詳細を表示するには、ログ エントリを選択して **[詳細]** ボタンをクリックします。
10	更新	最新のログ情報が含まれるように表示を更新するには、このボタンをクリックします。
11	クリア	ログから情報をクリアするには、このボタンをクリックします。 注記： **[クリア]** ボタンをクリックすると、画面に表示されているログのみがクリアされます。ログ エントリは製品に残ります（ジョブ課金情報のため）。

[ログ] 画面の **[詳細]** ボタンをクリックすると、**[詳細]** 画面が表示されます。この画面には、ジョブ ID、ジョブが送信された時刻、送信者名、およびその他の詳細情報など、デジタル送信ジョブに関する情報が表示されます。

図 4-15 **[詳細]** 画面

正常に送信されなかったジョブでは、**[詳細]** 画面の下部に **[トラブルシューティング]** ボタンが表示されます。**[トラブルシューティング]** をクリックすると、**[トラブルシューティング]** 画面が表示されます。詳細情報の下に表示されている下線付きのリンクをクリックすると、トラブルの解決に役立つ画面が表示されます。

ユーザー設定

[ユーザー設定] 画面は、デジタル送信機能の一般設定を指定するのに使用します。以下の図と表に、この画面の使用方法を示します。

図 4-16 **[ユーザー設定]** 画面

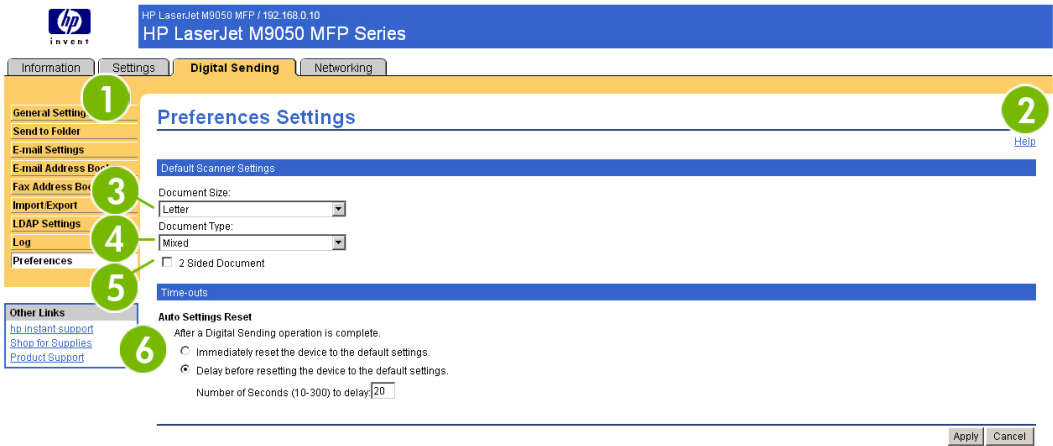



表 4-12 **ユーザー設定**

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	ヘルプ	クリックすると、**[デジタル送信]** タブの画面に関する情報が含まれたヘルプ ファイルが開きます。
3	文書サイズ	製品のスキャナが文書をスキャンするときに使用するデフォルトのメディア サイズを選択します。
4	文書タイプ	製品のイメージ プロセッサが文書をスキャンするときに使用するデフォルトのメディア タイプを選択します。 ● **[テキスト]** ● **[フォト]** ● **[混在]**
5	両面原稿	文書の両面をスキャンする場合は、このチェック ボックスをオンにします。
6	自動設定リセット	ジョブに関連付けられているすべてのデジタル送信設定を、製品のデフォルト設定にリセットするには、タイムアウト オプションを使用します。ユーザーが設定を変更したデジタル送信操作の完了直後、または完了してから 10 ～ 300 秒後に設定をリセットすることができます。

5　ネットワーキング画面からのネットワーク操作の管理

概要

ネットワーキング画面は、ネットワーク上の製品を設定および管理するのに使用します。**[ネットワーキング]** タブで使用可能な画面の外観と機能は、HP Jetdirect プリント サーバのモデルとバージョンによって異なります。**[ネットワーキング]** をクリックすると、以下のような画面が表示されます。左側のナビゲーションバーで、表示する画面の **[ネットワーキング]** メニューをクリックします。

図 5-1 **[Network Settings]** 画面

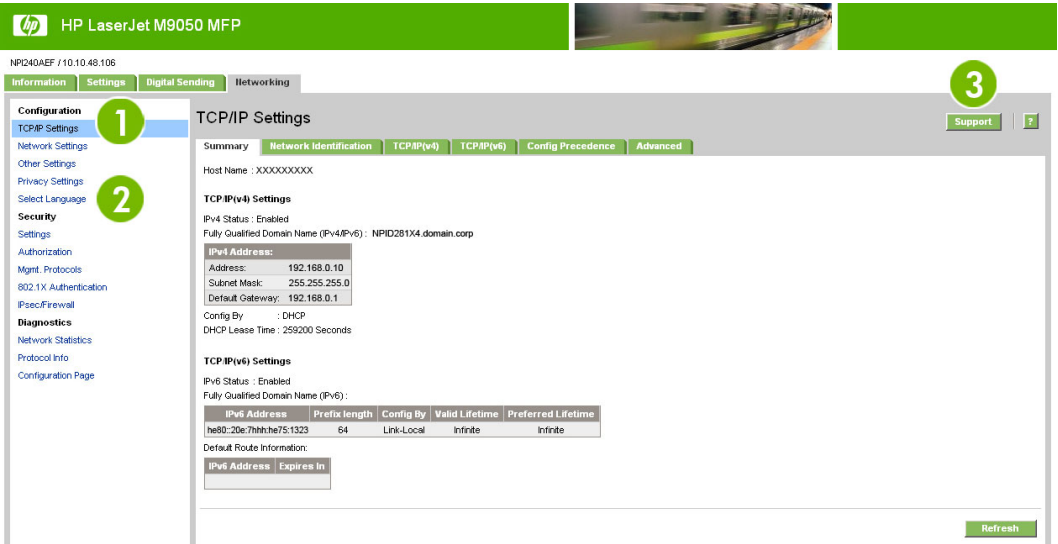



表 5-1 Network Settings

番号	画面の領域	領域に表示される情報、または領域の機能
1	HP EWS のタブとメニュー	詳細については、「8 ページの 「HP 内蔵 Web サーバ内の移動」」を参照してください。
2	言語を選択	**[ネットワーキング]** タブの言語を選択します。**[ネットワーキング]** タブに表示される言語のリストは、**[設定]** タブに表示されるものとは異なります。
3	サポート/ヘルプ	**[サポート]** または **[?]** をクリックすると **[ネットワーキング]** タブのオプションの詳細情報が表示されます。

ネットワーキング画面で実行可能なタスクの一部を以下に示します。実行可能なタスクは、HP Jetdirect プリント サーバ モデルとオペレーティング バージョンによって異なります。

- 各種ネットワーク接続のネットワーク設定を変更する。
- 管理プロトコルをオンまたはオフにする。
- サポート連絡先とサポート URL を設定する。
- 製品およびネットワーク設定へのアクセスを制御するパスワードを設定する。このパスワードは、**[設定]** タブの **[セキュリティ]** 画面に設定したパスワードと同期されるため、いずれかの画面で設定したりリセットすることができます。
- パスワード、アクセス リスト、および管理プロトコルを使用して、製品のセキュリティを設定する。

- ネットワークのトラブルの解決または最適化のために、プリント サーバに保存されているネットワーク統計など、一般的なネットワーク ステータス情報を表示する。
- サポートされているすべてのネットワーク接続のプロトコル情報を表示する。
- HP Jetdirect の [設定] ページを開く。94 ページの 「HP Jetdirect セキュリティ設定ウィザード」を参照。
- HP EWS がネットワーク ステータスをチェックする頻度を設定する。

ネットワーキング画面の詳細については、以下の情報も参照してください。

- **ヘルプ** - [ネットワーキング] 画面で **[サポート]** および **[?]** リンクをクリックすると、ネットワーク機能の説明が表示されます。また、**[サポート]** 画面から、HP Web サイトに掲載されているヘルプにもアクセスすることができます。

HP Jetdirect セキュリティ設定ウィザード

HP Jetdirect セキュリティ設定ウィザードを使用して、HP Jetdirect プリント サーバ管理のセキュリティを設定できます。

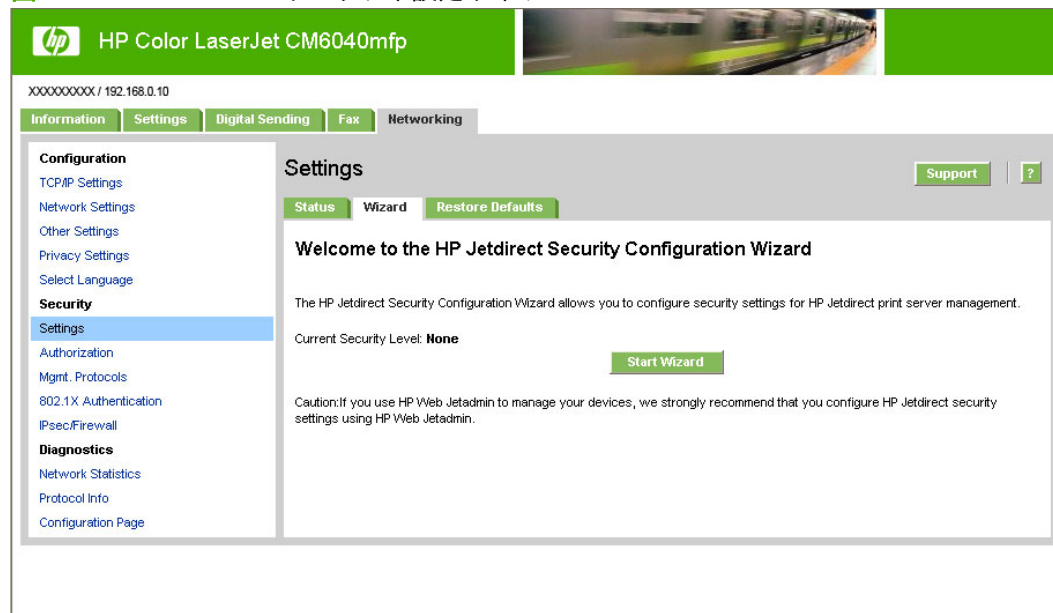
HP Web Jetadmin は、ネットワークに接続されているデバイスをインストール、設定、管理するための強力な Web ベースのソフトウェア ユーティリティです。このユーティリティを使うとデバイスのインストールや設定ができるので、このユーティリティ自体を不正アクセスからセキュリティ保護できる必要があります。セキュリティを設定することによって、このユーティリティ自体を不正アクセスからセキュリティ保護できるだけでなく、このユーティリティで管理するデバイスも不正アクセスからセキュリティ保護できます。デバイスのセキュリティ保護は、以下の理由から重要です。

- プリンタのダウンタイムを短縮する
- ヘルプ デスクへの問い合わせを低減する
- トラブルシューティングのために現場に出向く回数を最低限に抑える
- 消耗品の使用量を最低限に抑える

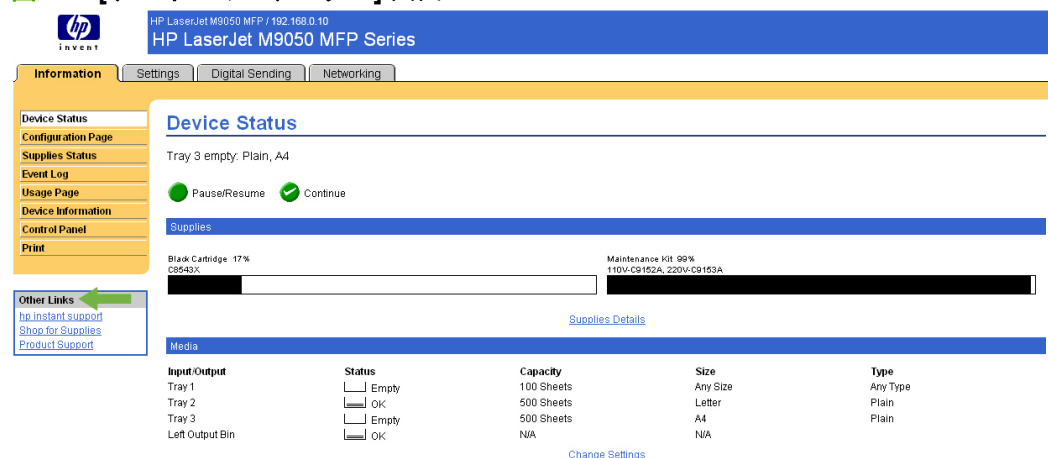
注記： HP Web Jetadmin を使用してプリンタを設定する場合、HP Web Jetadmin で HP Jetdirect のセキュリティを設定することをお勧めします。

HP Jetdirect ファームウェアの強化や改訂の際には、パフォーマンスとセキュリティの問題に対する対応が行われます。プリンタのファームウェアを常に最新のリビジョン レベルに維持し、最大のセキュリティ保護を確保してください。HP Web Jetadmin を使用すると、HP Jetdirect ファームウェアを個別にまたは複数台分一度にアップグレードできます。

以下の図では、この画面の使用方法を説明します。

図 5-2 HP Jetdirect セキュリティ設定ウィザード

6 その他のリンクのリソースとしての使用

[その他のリンク] ボックスには、対話形式によるトラブル解決、HP 純正サプライ品の注文情報など、製品固有の情報にすばやくアクセスすることが可能な 3 つの固定リンクが含まれています。

図 6-1 [デバイスのステータス] 画面

注記： **[設定]** タブの **[その他のリンクの編集]** 画面を使用して、最大 5 つのカスタマイズ リンクを任意の Web サイトに追加できます。これらのリンクは、すべての EWS 画面の左側のナビゲーション バーの下にある **[その他のリンク]** ボックスに表示されます。詳細については、「50 ページの 「その他のリンクの編集」」を参照してください。

次のセクションで、**[その他のリンク]** ボックスにデフォルトで表示される各リンクについて説明します。

hp Instant Support

Hewlett-Packard 社では、お客様の製品から診断情報を収集して、HP の情報データベースと照合するインターネットベースのサポートシステムである hp Instant Support を提供しています。hp Instant Support では、問題をすばやく簡単に解決できるインテリジェントなソリューションを用意しています。

hp Instant Support の動作

[hp Instant Support] をクリックすると、お客様の製品が収集され、Hewlett-Packard 社に安全に転送されます。hp Instant Support Web サイトは、製品データを読み込んで、製品の現在のステータスを分析します。Web サイトは、ブラウザ ウィンドウに表示され、わかりやすいテキストと図が含まれたカスタマイズされた Web ページを作成します。また、hp Instant Support Web サイトは、各製品で使用可能な追加のサービスについても紹介しています。

分析のために製品データが Hewlett-Packard 社に送信される前に、送信されるすべての情報 (シリアル番号、エラー状態、および製品のステータス) を表示することができます。Hewlett-Packard 社は、この情報を機密情報として取り扱います。

hp Instant Support から取得する情報

hp Instant Support Web サイトでは、トラブルの解決およびメンテナンス用の以下のツールを提供しています。

- ファームウェアとソフトウェアのアップデート。
- イベント ログに記録されている最近のイベントのトラブル解決情報。たとえば、イベント ログに記録されている最新のイベントが紙詰まりの場合、 hp Instant Support Web サイトがそのイベントを検出し、紙詰まりに関するトラブル解決情報を提供します。
- サポート パック。
- ユーザーズ ガイドやセットアップ ガイドなどの製品マニュアル。

サプライ品の購入

[サプライ品の購入] リンクを使用すると、Web ページに接続して希望の小売店にサプライ品をオンラインで簡単に注文できます。必要なサプライ品はあらかじめ選択されていますが、 個数の変更やサプライ品の追加選択ができます。選択したサプライ品は買い物カゴに入り、精算が可能になって、選択した小売店にサプライ品が正しく注文されます。

製品サポート

[製品サポート] リンクでは、法人向けのサポート リソースの包括的なメニューが表示された Web ページに接続されます。この Web ページから、以下のようなタスクを実行できます。

- 1 つのサイトで HP 製品 (コンピュータ、ワークステーション、サーバ、ストレージ デバイス、プリンタ、スキャナ、デジタル イメージング、およびモバイル デバイス) のリストを検索する。
- テクニカル サポートを得る。問題を解決する。製品をセットアップ、インストール、および設定するための情報を検索する。製品を探索および使用する。製品をメンテナンスする。製品のソフトウェアとドライバをアップグレードおよび移行する。製品をリサイクルしたり製品を正しく廃棄する。
- FAQ、ユーザー マニュアル、機能と仕様、および製品の互換性情報などの自己解決リソースにアクセスする。
- ディスカッション グループ、電子メール サポート、および電話サポートを通じて HP とお客様の担当者が共同作業を行う。
- タスクベースのナビゲーションを使用して、対処するタスク領域を特定し、関連するトピックおよびツールをすばやく見つけ出す。

また、 最新トピック、購読センター、製品割引販売やその他のお知らせ、およびトレーニング/教育情報などの機能も備えています。

ファックス機能と設定については、以下の Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/mfpfaxaccessory300

[サービス プロバイダ] リンクと [サービスの連絡先] リンク

[サービス プロバイダ] リンクと **[サービスの連絡先]** リンクは、サービス プロバイダが **[設定]** タブの [その他のリンク] 画面で作成した場合のみ表示されます (通常、名前も変更されます)。あらゆるユーザーがリンクをクリックして、サービス プロバイダおよびサービスの連絡先に関する情報を入手できます。情報は 50 文字以内で指定でき、製品の永久記憶装置に保存されます。

索引